2022年度　事業報告

社会福祉法人　平成記念会

目次

法人全体 ・・1
ケアハウスエルベ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
ケアハウス淡路エルベ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
ケアハウス東浦エルベ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
ケアハウス山口エルベ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
介護老人福祉施設ヴィラ勝占・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
介護老人福祉施設ヴィラ羽ノ浦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
介護老人福祉施設ヴィラ本郷・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
介護老人福祉施設ヴィラ都筑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
介護老人福祉施設ヴィラ町田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
介護老人福祉施設ヴィラ神奈川・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
介護老人福祉施設ケアホーム板橋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
介護老人福祉施設ケアホーム葛飾・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
介護老人福祉施設ケアホーム住吉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
平成デイサービスセンター渭北・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
グループホーム八万・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
那賀町鷲敷デイサービスセンター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
平成デイサービスセンター平田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
平成デイサービスセンター黒磯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
平成デイサービスセンター鳴門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
平成デイサービスセンター徳島・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
訪問ステーションてとてと東大阪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
訪問ステーションてとてと小平・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
訪問ステーションてとてと徳島・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
ＯＵＣＨＩ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
岩国市岩国第三地域包括支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
サポートハウスココロネ住吉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

１．2022年度　事業報告の概要

- 業績等
  - 収益
    - 前年度比で7.6%増加
      - サポートハウスココロネ住吉の新規開設及びケアホーム住吉の2年目の稼働
      - 臨時介護報酬改定に伴う影響
        - 介護職員等ベースアップ等支援加算
      - 新型コロナウイルス感染症及び物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金

  - 稼働率
    - 入所系・居住系サービスでは、クラスターの発生等によりほとんどの施設が目標の99%以上を未達成
    - 通所系サービスでは、昨年度より新型コロナウイルスによる利用控えが少なく、7割以上の事業所で稼働率が上昇
    - 訪問系サービスでは、通所サービスに代わる利用が増え、利用者数は増加

  - 収支改善
    - 営業・広報活動の継続的な実施
    - 人員配置の適正化及び業務の効率化

- サービスの質
  - オンライン面会及び面会ブース導入による対面面会の実施
  - 外出行事が減っているため、施設ドッグとのふれあいの時間を提供
  - コロナ禍でもサービスを継続できるように、食事の提供及びレクリエーション等の工夫

- 人材の確保、育成
  - 研修の実施
    - E-ラーニングやオンラインを活用した研修会への積極的な参加
    - 資格取得の為の研修会への参加及び支援
    - 「介護キャリア段位制度」におけるアセッサー講習の受講推進
    - 新入職員や介護未経験者に対する認知症介護基礎研修の受講推進
  - 福利厚生の充実、働きやすい職場環境の提供
    - ICT環境の整備
    - 有給休暇・育児・介護休業制度等の休暇取得の充実

- 法人、グループ内の連携
  - 感染症発生時の連携体制の確立
  - コロナ禍における実地（書面）指導への支援
  - 加算算定基準及び法令遵守に関する支援

- 地域貢献活動
  - オンラインでの地域高齢者施設の相談会への参加
  - 施設車両での防犯パトロール
  - 感染対策を行いながらの健康教室の開催
  - 地域支え合い活動として地域高齢者の買い物の移送車両提供に協力
  - 地域住民を対象とした防災についての講義・居住区づくり簡易トイレ設置体験の実施
  - 地域住民と一緒に地域の清掃活動に参加
  - 児童養護施設に手作りおやつをプレゼントする事業
  - 児童養護施設や地域での子供を対象としたアートレッスンの開催及び作品の展示

- 新規事業
  - 新規開設整備事業
    - サポートハウスココロネ住吉（2022年6月開設）

- 新型コロナウイルスへの対応
  - 職員１人１人の意識向上の為に施設内での感染対策の研修会の実施、また日頃から濃厚接触者にならない為の感染対策の徹底
  - 施設、設備の衛生管理や感染ラウンドの実施など感染対策の強化
  - 定期的なPCR検査・抗原定性検査の実施

- 新型コロナウイルス感染症に関する補助金
  - 東京都・横浜市・兵庫県・徳島県・山口県
    - サービス提供体制確保事業補助金（介護・障害サービス）
  - 東京都
    - 高齢者施設等事業継続支援事業補助金
    - 新型コロナウイルスワクチン接種促進支援事業協力金
    - 高齢者施設における新型コロナウイルス感染症対策強化事業
  - 兵庫県
    - 新型コロナウイルス感染症対策に係る医療機関向け補助金（感染症対策課所管分）
    - 神戸市_教育・保育施設等における新型コロナウイルス感染症対策事業補助金
    - 神戸市_新型コロナウイルス感染症対応医療機関支援事業補助金
  - 徳島県
    - 新型コロナウイルス感染症自宅療養患者支援協力金

- 物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金
  - 東京都
    - 介護サービス事業所燃料費高騰緊急対策支援金
    - 特別養護老人ホーム等物価高騰緊急対策支援金
    - 板橋区_介護施設物価高騰対策支援金
    - 小平市_事業用燃料費高騰臨時対策補助金
    - 小平市_事業者向け感染防止徹底協力金及び小平市電気料等物価高騰応援金
    - 小平市_光熱水費等高騰臨時対策補助金
    - 町田市_介護サービス事業所等物価高騰対策支援給付金事業
    - 足立区_障がい福祉サービス等事業所に対する２つの区独自の特別給付金支給事業
  - 横浜市
    - 高齢者施設等物価高騰対策支援事業
  - 兵庫県
    - 高齢者施設原油価格・物価高騰対策一時支援金
    - 医療機関等原油価格・物価高騰対策一時支援金
    - 神戸市_コロナ禍における物価高騰対策福祉施設等緊急支援事業（介護・障害）
  - 東大阪市
    - 高齢者施設等物価高騰対策支援金

- ■ 社会福祉施設等物価高騰対策一時支援金
- ○ 徳島県
  - ■ 電気料金等高騰対策支援事業
  - ■ 医療・社会福祉施設等電気料金等高騰対策等事業支援金
  - ■ 阿南市_介護施設等物価高騰支援助成金
  - ■ 徳島市_社会福祉施設等物価高騰対策支援事業
  - ■ 鳴門市_高齢者施設等物価高騰対策支援事業
- ○ 山口県
  - ■ 介護施設等物価高騰緊急対策支援事業
  - ■ 介護施設等光熱費高騰緊急対策支援事業
  - ■ 岩国市_社会福祉施設等物価高騰対策支援金

2．運営状況（稼働率、利用者数）

※（　）の数値は対前年度の増減

高齢者事業

- 特養（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
ヴィラ勝占（入所）【50名】 （ｼｮｰﾄ）【10名】	99.3% 93.7%	99.4%（+0.1%） 96.0%（+2.3%）
ヴィラ羽ノ浦（入所）【50名】 （ｼｮｰﾄ）【10名】	99.3% 85.0%	96.3%（▲3.0%） 82.1%（▲2.9%）
ヴィラ本郷（入所）【30名】 （ｼｮｰﾄ）【10名】	96.6% 90.9%	88.6%（▲8.0%） 86.6%（▲4.3%）
ヴィラ都筑（入所）【110名】 （ｼｮｰﾄ）【10名】	99.1% 64.4%	98.4%（▲0.7%） 73.3%（+8.9%）
ヴィラ町田（入所）【200名】 （ｼｮｰﾄ）【20名】	98.7% 97.4%	98.0%（▲0.7%） 90.3%（▲7.1%）
ヴィラ神奈川（入所）【140名】 （ｼｮｰﾄ）【20名】	99.2% 94.4%	95.9%（▲3.3%） 100.8%（+6.4%）
ケアホーム板橋（入所）【200名】 （ｼｮｰﾄ）【20名】	97.6% 87.0%	94.5%（▲3.1%） 77.9%（▲9.1%）
ケアホーム葛飾（入所）【120名】 （ｼｮｰﾄ）【18名】	97.7% 94.5%	96.2%（▲1.5%） 100.9%（+6.4%）
ケアホーム住吉（入所）【100名】 （ｼｮｰﾄ）【20名】	68.0% 33.8%	97.1%（+29.1%） 65.6%（+31.8%）

- グループホーム（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
グループホーム勝占【18名】	99.4%	99.4%（±0%）
グループホーム本郷【18名】	95.1%	91.4%（▲3.7%）
グループホーム板橋【18名】	97.8%	98.4%（+0.6%）
グループホーム渭北【18名】	96.7%	95.8%（▲0.9%）
グループホーム八万【18名】	94.9%	96.8%（+1.9%）
グループホーム鳴門【18名】	93.6%	99.2%（+5.6%）

- ケアハウス（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
ケアハウスエルベ（一般）【70名】	97.9%	95.2%（▲2.7%）
ケアハウス淡路エルベ（一般）【40名] （特定）【30名】	99.3% 93.5%	98.9%（▲0.4%） 93.8%（+0.3%）
ケアハウス東浦エルベ（一般）【50名] （特定）【30名】	99.9% 93.4%	99.9%（±0%） 93.6%（+0.2%）
ケアハウス山口エルベ（一般＋特定）【50名】	97.4%	98.7%（+1.3%）
ケアハウス板橋（一般）【20名】	97.2%	97.7%（+0.5%）

- 訪問看護（延べ人数）

事業所名	2021年度	2022年度
訪問ステーションてとてと東大阪	17,538名	17,672名（+134名）
訪問ステーションてとてと小平	9,547名	9,126名（▲421名）
訪問ステーションてとてと徳島	15,864名	18,271名（+2,407名）

- 訪問介護（延べ人数）

事業所名	2021年度	2022年度
平成ホームヘルパーステーション黒磯	3,675名	3,780名（+105名）

- 通所介護（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
平成デイサービスセンター羽ノ浦【20名】	60.8%	56.8%（▲4.0%）
平成デイサービスセンター都筑【22名】	68.4%	76.2%（+7.8%）
平成デイサービスセンター町田【20名】	81.9%	94.6%（+12.7%）
平成デイサービスセンター神奈川【20名】	80.3%	80.4%（+0.1%）
平成デイサービスセンター渭北【23名】	75.7%	75.9%（+0.2%）
那賀町鷲敷デイサービスセンター【35名】	62.3%	62.9%（+0.6%）
平成デイサービスセンター平田【50名】	92.3%	90.5%（▲1.8%）
平成デイサービスセンター黒磯【35名】	87.3%	70.9%（▲16.4%）
平成デイサービスセンター鳴門【25名】	74.1%	78.5%（+4.4%）
平成デイサービスセンター徳島【25名】	77.5%	81.7%（+4.2%）

- 小規模・看護小規模（登録率）

事業所名	2021年度	2022年度
八万小規模多機能センター【29名】	90.8%	89.9%（▲0.9%）
鳴門小規模多機能センター【29名】	54.0%	58.9%（+4.9%）

- 居宅（ケアプラン数）

事業所名	2021年度	2022年度
平成在宅介護支援センター平田	1,613名	1,646名（+33名）
訪問ステーションてとてと小平	821名	861名（+40名）
訪問ステーションてとてと徳島	810名	799名（▲11名）

- 有料老人ホーム（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
メディケアハウス平成【20名】	96.2%	99.5%（+3.3%）

障がい者事業

- 就労継続支援B型（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
OUCHI CAFE KITCHEN【20名】	61.9%	82.7%（+20.8%）

- 共同生活援助（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
OUCHI HOME【14名】	64.2%	75.1%（+10.9%）

- 医療型障害児入所施設（療養介護・短期入所）（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
サポートハウスココロネ住吉【100名】	ー	14.7%

- 生活介護（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
ココロネリビング【20名】	ー	12.0%

- 放課後デイサービス（稼働率）

事業所名	2021年度	2022年度
ココロネクラブ【5名】	ー	26.7%

その他事業

- 地域包括支援センター（ケアプラン数）

事業所名	2021年度	2022年度
大谷口地域包括支援センター	3,617名	3,327名（▲290名）
岩国市岩国第三地域包括支援センター	1,955名	1,890名（▲65名）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

高齢者事業

エルベ（ケアハウス）【定員：一般-70名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 新型コロナウイルスの影響により減収となった。
      - 施設設備の大規模改修や修繕費が重なった。
    - 稼働率
      - 10月末から12月にかけ99%以上の稼働率を維持できたが、年間を通して新型コロナウイルスの影響を受け、稼働率は低迷した。
    - 収支改善
      - 職員一丸で節電を心がけ、無駄な電気使用を控えた。
      - 消耗品の使用方法を見直し、無駄な使用を減らした。
  - サービスの質
    - 窓越しでの面会を継続し、ご家族様の訪問が減らないよう実施した。
    - 感染症に不安のある入所者の相談対応を行い、ご家族様へ近況報告を実施した。
    - 安心して生活していただけるよう感染対策や声掛けを徹底した。
  - 研修の実施
    - 外部研修への参加が出来なかったが、e-ラーニングを活用し研修を実施した。
  - マニュアル類の整備
    - アルコール検査記録簿を作成し、社用車での酒気帯の有無の確認と記録を実施した。
    - 身体的抑制対応マニュアルの整備
    - 事故発生防止対応マニュアルの整備
    - 虐待防止マニュアルの整備
  - 地域貢献活動
    - 地域の消防団員参加の防災訓練を計画していたが、実施できなかった。
    - 地元町内会の防災講習会への参加を計画していたが、参加できなかった。
    - クラブ活動の再開を計画していたが、新型コロナウイルスの影響により、再開には至らなかった。
  - 改修工事
    - 屋根塗装改修工事
    - エレベーター油圧パッキン　修繕

- ■ キュービクル受電設備　入替
- ■ 浄化槽放流ポンプ　入替
- ■ 給湯器給水管　入替
- ■ 男子トイレ本体　入替

○ 新型コロナウイルスへの対応

- ■ 居室から出られるときは、マスクを着用していただくことを徹底した。
- ■ 施設内の消毒や換気を徹底し感染対策の強化に努めた。

● 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

○ 一般

	2021年度	2022年度
稼働率	97.9%	95.2%（▲2.7%）
単価（人・日）	4,079円	4,042円（▲37円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名　特定施設-30名】

高齢者事業

淡路エルベ（ケアハウス）【定員：一般-40名　特定施設-30名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - ベースアップ等支援加算、ADL維持等加算等新しい加算の算定。入居者様の状態変化で区分変更申請を提案したことにより平均要介護度が上がり増収。
      - 病院や居宅支援事業所等に電話やケアマネが施設来所時での営業を実施し、待機者の確保に努めた。
      - 待機者への意志確認、すぐ入居して頂けるよう定期的に連絡を行い空床の期間を減少させ稼働率へつなげた。
    - 稼働率
      - コロナ感染状況により入退居がスムーズに出来なかった時もあったため稼働率が低下する原因となった。
    - 収支改善
      - 物品発注において在庫管理徹底、必要数の再検討を行った。
      - 照明や空調の温度管理を積極的に行った。
      - 区分変更申請の提案を行い適切な介護度でサービス提供ができた為、実際に平均要介護度が上がり介護報酬増収につなげることができた。
  - サービスの質
    - 接遇面の向上を継続して目指し定期的に勉強会を実施した。
    - オンライン面会を案内し定期的に実施した。詳しく説明することで多くの方に利用頂く事ができ、入居者様にも喜んで頂いた。
    - 生活機能向上連携加算の算定により、併設医療機関所属の理学療法士と連携し、特定施設利用者個人個人に対して効果的な機能訓練を実施できた。
    - 介護の経験の少ない新人職員に対してはEラーニングも活用し、研修を実施した。

  - 地域貢献活動
    - 南あわじ市社会福祉連絡協議会へ参加し、災害時の地域への貢献活動の準備に取り組み、防災訓練に参加、災害ボランティアセンター設営訓練に参加した。
    - 月２回南あわじ市地域ケア会議へ参加し民生委員の方と交流し、その中で

入居に関する相談や営業を実施した。

○ 改修工事
- ボイラー熱交換器洗浄（2022年4月）
- 厨房スチームコンベクション修理（2022年6月）
- ボイラーポンプオーバーホール（2022年7月）
- コピー機修理（2022年10月）
- シャワーポンプオーバーホール（2023年3月）

○ 新型コロナウイルスへの対応
- 感染対策委員会を定期的に実施し、毎朝のミーティングなどで情報共有や感染対策の徹底について注意喚起した。
- 環境衛生や換気の時間を設定し、職員全員で取り組んだ。
- 移動販売や近くのコンビニ、ドラックストア等と連携し買い物支援を行った。
- 協力医療機関との連携を密に行い、入居者が発熱等で体調を崩した場合の連絡体制を整えたことで、早急に検査や対応をしていただけた。

● 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

○ 一般

	2021年度	2022年度
稼働率	99.3%	98.9%（▲0.4%）
単価（人・日）	3,757円	3,805円（+48円）

○ 特定施設

	2021年度	2022年度
稼働率	93.5%	93.8%（+0.3%）
平均要介護度	1.1	1.2（+0.1）
単価（人・日）	5,785円	5,928円（+143円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名　特定施設-30名】

高齢者事業

東浦エルベ（ケアハウス）【定員：一般-50名　特定施設-30名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 特定施設
        - ADL維持等加算、介護職員等ベースアップ等支援加算算定開始
      - ケアハウス
        - 処遇改善加算算定開始
      - 補助金
        - 高齢者施設原油価格・物価高騰対策一時支援金
        - 介護事業者等サービス継続支援事業補助金
    - 稼働率
      - 待機者を常に確保し、稼働率99%維持
    - 収支改善
      - 入院先の病院と連携し、入退院の情報共有を密に行い、ベットコントロール実施
  - サービスの質
    - セブンイレブン移動販売車の導入
      - 外出を控える入居者さんの為、週に１回お菓子や洗剤などの日用品が購入可能
  - 人材の確保、育成
    - 介護福祉士資格取得促進し、常勤介護職員１名合格
  - 地域貢献活動
    - マイナンバーカード普及促進事業
      - 淡路市役所と連携し、当施設で出張申請を実施
      - 入居者41名・職員2名がマイナンバーカード取得
  - 新規事業・改修工事
    - 給湯器購入（2022年4月）
    - 食器洗浄機購入（2022年7月）
    - エアコン設置工事（2022年7月）
    - ボイラー室配管水漏れ工事（2022年7月）
    - ガスボンベ調整器取替工事（2022年7月）
    - 浴槽補給弁サーモスタット取替工事（2023年2月）

○　新型コロナウイルス感染症への対応

■　新型コロナウイルスワクチンの接種

●　入居者へ説明と同意を得て全入居者様に実施できた

■　令和4年12月に入居者37名、職員17名感染する大規模クラスターが発生

●　入院11名、施設療養者26名

●　東浦平成病院と連携し、令和5年１月に終息

●　重症者はおらず、全員通常通りの生活が可能

●　入居者及び家族からの苦情等もなく適切な運営ができた

主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

○　一般

	2021年度	2022年度
稼働率	99.9%	99.9%（±0）
単価（人・日）	3,453円	3,470円（+17円）

○　特定施設

	2021年度	2022年度
稼働率	93.4%	93.6%（+0.2%）
平均要介護度	1.6	1.6（±0）
単価（人・日）	6,319円	6,461円（+142円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　山口エルベ（ケアハウス）【定員：特定施設-50名】

高齢者事業

山口エルベ（ケアハウス）【定員：特定施設-50名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 介護報酬収益について、個別機能訓練加算の一時取り下げにより稼働率は前年を上回ったものの入居者一人当たりの単価が下がり、前年度比でやや減少したが、全体の収益としては物価高騰支援等の補助金により増加した。
    - 稼働率
      - 入院等で長期離脱が見込まれる場合は早期に医療機関やご家族等と面談し、退居・新規入居の対応を早めたことにより上昇した。
    - 収支改善
      - 2022年7月にADL維持等加算届出。
      - 既存の加算については取りこぼしなく算定できた。

  - サービスの質
    - 毎月2回以上のイベントを開催し、充実した余暇活動を提供できた。3月には年間のイベント時に撮影した写真をデータ化し、スライド上映会も実施した。
    - 業務改善委員会を中心とした業務内容の見直しおよび改善を行い、業務の効率化を図った。

  - 人材の確保、育成
    - 研修の実施
      - 毎月施設内勉強会を実施し、様々なテーマについて学んだ。
      - Eラーニングを活用し、職員個々の知識を深めることができた。
    - キャリアパス制度の整備など人事管理、制度の適正化
      - 働きやすい労働環境を目指し、介護休業制度等各種制度の積極的な活用や、定時退社の徹底を行った。
    - 法人、グループ内の連携
      - 相互に連携・協力体制をもち、山口エリア全体の入退院・入退所状況の情報を共有して、ご利用者さまに切れ目のない医療・福祉サービスを提供できた。

○　地域貢献活動

■　新型コロナウイルスの影響により、地域行事への参加や実施、ボランティア招致なども行えなかった。

○　改修工事

■　厨房排水管詰まり修理（2022年7月）

■　脱衣場手洗い自動水栓取替工事（2022年11月）

○　新型コロナウイルス感染症への対応

■　感染対策委員会を中心とした追加予防策の検討や環境整備の提案、全職員への情報共有など、感染対策の徹底ができた。

■　2023年1月15日より2月4日の間、施設内で新型コロナウイルス感染症が発生し、入居者12名の感染が確認されたが、職員の迅速・適切な対応や、近隣病院・施設の支援により、速やかに終息できた。

● 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

○　一般

	2021年度	2022年度
稼働率	0%	0%（±0%）
単価（人・日）	0円	0円（±0円）

○　特定施設

	2021年度	2022年度
稼働率	97.4%	98.7%（+1.3%）
平均要介護度	1.8	1.6（▲0.2）
単価（人・日）	9,835円	9,650円（▲185円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名　ショート-10名】

グループホーム勝占【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ勝占（特養）【定員：入所-50名　ショート-10名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 10月より新たに介護職員等ベースアップ等支援加算を算定し、入所、ショートとも増収に繋げることが出来た。
      - ショートでは減少したショートスティ利用者を、連続して長期間利用していただくことにより増収に繋げることが出来た。
    - 稼働率
      - 新型コロナウイルス感染症の影響もありスムーズに受け入れができず空床ができてしまうこともあったが、入所、ショート共に待機者を意識し、急な退所があればショートから入所への切り替えを行った。
      - 敷地内医療機関や近隣の居宅事業所と連携を図り、前年度より稼働率アップに繋げることが出来た。
    - 収支改善
      - 光熱費の高騰により、使用方法について毎月見直しを行い施設全体で無駄な電気の削減に努めた。
      - ショートでは、医療度の高い利用者様も積極的に利用していただき、平均要介護度、収益の上昇に繋げることができた。
  - サービスの質
    - 感染対策を万全にユニット単位の少人数で、サークル活動及び四季折々の行事、又遠足を実施し行動制限のある中でも充実した施設生活を送っていただけるよう努めた。
    - 面会禁止により不自由をおかけしている利用者様、ご家族様に対しオンライン面会や窓越しでの面会を積極的に行った。
    - ユニットでの活動の様子を写真撮影し、楽しそうな生活の様子をご家族様に報告をさせていただいた。
  - 人材の確保、育成
    - 「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」において評価を実施した結果、1名レベル２①に評価することができた。
    - 施設内研修においてはe-ラーニングを活用し、知識の習得に努めた。又外部研修ではzoomを活用し、コロナ禍においても積極的に意見交換や学習の場を獲得することができた。

        - 資格取得
            - 介護福祉士国家試験に3名合格することが出来た。
            - ユニットリーダー研修に、1名受講することが出来た。
            - 認知症介護基礎研修に、1名受講することが出来た。
    - 地域貢献活動
        - 今年度もコロナ禍において、充分な地域貢献活動はできていないが、施設周辺の用水付近の草抜き、清掃活動を実施した。
    - 改修工事
        - エレベーターのバッテリー交換。
        - 電解水生成装置の取り換え。
        - 食器消毒保管庫の取り換え。
        - ガス給湯器の取り換え。

    - 新型コロナウイルスへの対応
        - 本年度も新型コロナウイルス感染症における、感染対策を強化した。
        - 職員14名、家庭内感染にて新型コロナに罹患したが、感染対策の徹底により利用者様や職員への感染は広がることはなかった。
        - 感染委員会を中心に、感染症予防の勉強会、シュミレーション、PPE実技訓練を実施し、急な感染に対応できるよう備えた。
- 主な指標
    - 入所

※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	99.3%	99.4%（+0.1%）
平均要介護度	4.1	4.1（±0）
単価（人・日）	14,623円	14,798円（+175円）

    - ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	93.7%	96.0%（+2.3%）
平均要介護度	3.8	4.0(+0.2)
単価（人・日）	13,505円	13,698円（+193円）

グループホーム勝占【定員：18名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 前年度と比較して平均要介護度は下がり、稼働率も横ばいであったが、10月に介護職員等ベースアップ等支援加算が新設されたことにより増収に繋がった。
    - 稼働率
      - 99.4%（前年度比±0）
        退居後すぐに入居に繋げることができず、4月は96.3%、3月は98.4%と稼働率が低下した。5月～2月は99.1%～100%を維持することができたが、年平均99.4%と前年度を上回ることはできなかった。
    - 収支改善
      - 管理栄養士協力の下、栄養管理体制加算の算定を継続し、入居者様の栄養状態の改善に努めた。
      - 2022年10月に介護職員等ベースアップ等支援加算が新設された。
      - 物品の在庫管理を行い、過剰発注やストックを控えた。
  - サービスの質
    - アンケートの実施
      - 入居者様及び家族様へ生活環境や接遇に関するアンケートを実施した。職員の挨拶や言葉使いに関して不満足との回答が1件あった為、接遇に関する勉強会を実施し改善に努めた。
    - 職員満足の追及
      - 職員間のコミュニケーションを大切にし、意見を言いやすい関係、働きやすい環境作りに努めた。
    - 余暇活動の充実
      - 新型コロナウイルスの感染予防対策を行いながら、毎日レクリエーションを実施することができた。外出自粛が続く中ではあったが、戸外にも目を向け、気候の良い日には積極的に散歩に出かけた。毎月の行事についても、新たな取組で入居者様に楽しんでもらいたいという職員のアイデアを形にし、実施することができた。
    - 家族交流
      - 面会に制限がある中においてもオンライン面会や窓越し面会を積極的に行い、入居者様と家族様との関わりを断ち切らない支援に努めた。

- 感染対策
  - 家庭内感染により新型コロナウイルスに罹患した職員が3名いたが、施設内への持ち込みはなく、感染が拡がることはなかった。入居者様や家族様の協力と職員の日々の感染予防対策の徹底により、入居者様が新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症に罹患することなく過ごすことができた。また、感染症が発生した場合に備えて、手指洗浄やPPEの着脱の仕方についての勉強会を実施した。

- 人材の確保、育成
  - 研修や勉強会への参加の機会の確保
    - Web研修を活用して法人内外の研修に参加することができた。また、参加する職員が偏らないよう配慮し、職員が満遍なく学ぶ機会を持てるよう努めた。また、グループホーム内での勉強会においてはe-ラーニングを積極的に活用した。
  - 認知症介護基礎研修の受講
    - 2名受講した。
  - 人材の確保
    - 職員からの紹介や求人情報からの応募があり、人材を確保することができた。
- 地域貢献活動
  - 地域交流
    - 新型コロナウイルスの影響で地域の方と関わりを持つことができなかったが、地域のお地蔵様の前掛け作りや交換は継続して実施することができた。また、施設前用水路周辺の草抜きも実施した。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	99.4%	99.4%（±0）
平均要介護度	3.0	2.8（▲0.2）
単価（人・日）	12,384円	12,420円（+36円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名　ショート-10名】

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ羽ノ浦（特養）【定員：入所-50名　ショート-10名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 入所では、2022年12月～2023年2月にかけてコロナ感染症クラスターの発生により入院・退所者が増加し、前年度比約420万円の減収となった。
      - ショートも同様に約94万円の減収となった。
    - 稼働率
      - 入所では、前年度（99.3%）から3%下回り、年間を通しての稼働率は96.3%となった。
      - ショートも、82.1%となり、前年度を2.9%下回った。
    - 収支改善
      - 入所では、2022年10月より介護職員等ベースアップ等支援加算が算定できるようになった。1名が前年度の介護福祉士国家試験に合格し、日常生活継続支援加算（I）の算定を維持できた。
      - ショートステイでも介護職員等ベースアップ等支援加算を算定し、サービス提供体制強化加算IIも維持することができた。
      - 全体収支を考慮しながら上位算定基準を満たす人員を配置することが今後の課題となる。

  - サービスの質
    - 認知症高齢者が700万人に達するとされる将来推計や、阿南市の高齢化率がすでに30%を超えている現状から見ても、入所・利用者の状態や抱えている疾病が開設当初とは大きく様変わりしている。介護報酬改定でも無資格の介護職員等の認知症介護基礎研修受講が義務化されるなど認知症対応力向上が課題とされ、当施設においても、認知症介護実践者研修修了者が3名となっている。特養における医療面の充実も喫緊の課題となっており、2022年度に入職した者を含めて認定特定行為業務従事者が10名となった。
  - 人材の確保、育成
    - グループで進める「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」におけるアセッサー資格保有者2名の内、1名を介護マネージャーに昇格させ、介護課全体の業務が円滑に行われるように、サービスの質の向上・改善に努めた。

        - 外国人（バングラデシュ）技能実習生2名が技能実習2号へ移行した。3号移行を目指し日本語能力の向上に努めている。
    - 地域貢献活動
        - コロナ禍で充分な地域交流・貢献活動ができなかったが、ホームページの「お知らせ」に注力し、施設内の情報発信に努めた。
    - 改修工事・備品修理及び購入
        - 1階天井裏給湯配管　修繕
        - 外部雑排水管　修繕
        - 排水槽放流ポンプ配管　修繕
    - 新型コロナウイルスへの対応
        - コロナ感染症第7波期間では、職員（及び同居家族）の感染が拡大したものの、ほとんどが家庭内感染に留まり、自身の感染や濃厚接触で出勤停止となった職員の代わりを確保するのに苦労したが、施設への感染拡大は逃れた。12月から2月にかけて施設内でコロナクラスターが発生し、今年度の稼働率及び収入減の大きな要因となった。
        - クラスターが収まり、マスク着用が個人の判断となった3月中旬より対面による面会を再開することが出来た。

- 主な指標
    - 入所

※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	99.3%	96.3%（▲3.0%）
平均要介護度	4.1	4.2（+0.1）
単価（人・日）	12,369円	12,488円（+119円）

    - ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	85.0%	82.1%（▲2.9%）
平均要介護度	3.3	3.1（▲0.2）
単価（人・日）	9,995円	10,139円（+144円）

平成デイサービスセンター羽ノ浦（通所介護）【定員：20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - デイ部門においても職員・利用者がコロナ感染した例はあったものの、事業所内への感染拡大はなかった。併設特養部門での第7（7月～）、8波（12月～）の感染が少なからず影響し、思うように稼働率を上げることが出来ず、前年度より減収となった。
    - 稼働率
      - 特養部門のクラスターを機に利用控えとなる利用者が増え、稼働率が思うように上げることができず、年平均稼働率を昨年から4%下げた。2月以降新規利用者が増えて盛り返しており、利用の定着と更なる稼働向上に努める。
    - 収支改善
      - 協力病院よりリハビリテーションスタッフが派遣され、7月から個別機能訓練加算の算定を開始した。
      - 平均稼働率75%を目標に掲げたが達成できず、役職者のみならず現場職員一人一人が稼働率を認識するため週間稼働率を掲示して意識付けに努めた。
      - 提供サービスや内装等の様子を随時ホームページで配信するとともに、管理者、主任、生活相談員が計画を立てて事業所訪問をして周知を図った。
  - サービスの質
    - 入所サービスと同様、認知症高齢者の日常生活自立度の低い方や医療必要度の高い利用者が増えており、平均介護度が0.2%上昇した。これに対応するため、ミーティングや実践法の勉強会を通して基礎知識及び個別対応法について学ぶ機会を増やした。
  - 人材の確保、育成
    - 介護福祉士国家試験を受験予定の職員に実務者研修受講の機会の調整を図った。
    - 認知症介護実践研修を受講した職員1名による伝達研修を行い、認知症介護の知識及び対応について学ぶ機会を設けた。
  - 地域貢献活動
    - 月1回施設近隣に住む要介護・要支援とならない方を対象に開催していた介護予防・健康教室（ヴィラ羽ノ浦健康クラブ）がコロナ禍により中止が続いている。再開に向けた活動方法・感染対策の検討が課題となった。

- ○ 改修工事・備品修理及び購入
  - ■ リカンベントバイク　購入
  - ■ 送迎車両　修繕
- ○ 新型コロナウイルスへの対応
  - ■ 職員（及び同居家族）や利用者さんが個々に感染した事例はあったが、ほとんどが家庭内感染に留まった。自身の感染や濃厚接触で出勤停止となった職員の代わりを確保するのに苦労したが、施設への感染拡大は逃れた。

● 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	60.8%	56.8%（▲4.0%）
平均要介護度	2.0	2.2（+0.2）
単価（人・日）	7,975円	8,737円（＋762円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名　ショート-10名】

グループホーム本郷【定員：18名】

高齢者事業

ヴィラ本郷（特養）【定員：入所-30名　ショート-10名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 7、8月に新型コロナウイルスによるクラスター、3月にインフルエンザ蔓延が発生した影響もあり、昨年度と比較して入所・ショートともに稼働率が大きく下回る結果となった。
      - 前年度の収益と比較して、入所は8.0 %、ショートは0.5%下回る実績となった。
    - 稼働率
      - 7、8月に新型コロナクラスターによる影響等で入所者30名のうち入院者が15名、うち8名が退所となった。
      - 3月にインフルエンザ蔓延による影響等で入所者30名のうち入院者が8名、うち半数が退所となった。
      - 待機者も多くなかったため、退所者人数分の新規入所をなかなか補填できず、長い期間空床を埋めることができなかった。
      - 感染発生期間ではショートは受け入れ中止としていたため、大きな稼働率の低下があった。
      - 入所申込者・待機者の確保ができない時期があり、退所者発生後の対応に遅れが出ることがあった。
    - 収支改善
      - 入所、ショートともにご利用者の全体的な介護度の上昇により、利用者一人あたりの単価上昇があった。
      - 常勤看護師の確保ができず、加算算定再開はできていない。
  - サービスの質
    - コロナ禍のため外出の機会は殆ど無かったが、施設内でも季節を感じられるような定期イベントの開催、飾りや掲示物などの工夫を行った。
    - 家族等にもご利用者の状況把握ができるように、定期報告や広報活動に力を入れた。大きなトラブルなどもみられなかった。
  - 人材の確保、育成
    - EPA候補生の帰国や特定技能生のグループ内異動の影響で大幅な介護職員の人員不足に陥ったが、近隣地域から常勤1名、非常勤2名の採用ができた。
    - 看護職員も近隣より非常勤1名（准看護師）の採用することができ、既存の職員の負担軽減に繋げることができた。

        - 技能実習生も7月、3月と2名の受け入れを行うことができた。
        - オンライン研修による職員の知識・技能向上を推進した。
        - エリア別の介護技術研修の実施により、介護職員の知識向上、スキルアップを推進することができた。
    - 地域貢献活動
        - 新型コロナウイルスの影響により、地域行事への参加や自施設での施設開放イベントの開催等は困難であった。
        - 岩国市公益活動において、山口県岩国市におけるフードバンクの設立をすすめることとなった。専門家を招致した研修会や協会役員との話合いに参加し、協力を行っている。
        - 本郷地域の問題解消にかかわる会議へ定期参加している。
    - 改修工事
        - 2022年12月に電話回線工事を行い、電話機器等を更新した。
    - その他
        - クラスター以外でも、職員やその家族等に新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者の発生があり、業務への影響が大きかった。

- 主な指標
    - 入所

※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	96.6%	88.6%（▲8.0%）
平均要介護度	4.0	4.1（+0.1）
単価（人・日）	12,873円	13,034円（+161円）

    - ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	90.9%	86.6%（▲4.3%）
平均要介護度	2.6	3.0（+0.4）
単価（人・日）	10,753円	11,257円（+504円）

グループホーム本郷【定員：18名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 大幅な稼働率低下が影響し、収益が前年度を5.0%下回る実績となった。
    - 稼働率
      - 退去の判断の難しい入院者が多数出て、結果として稼働率の低下につながった。
      - コロナの影響による入居の遅れが複数あり、稼働率悪化に影響している。
    - 収支改善
      - 平均要介護度が低くなったため、一人一日当たりの単価が若干低下している。
  - サービスの質
    - 感染予防のために外部の人と関わるような外出イベントは自粛したが、施設周辺での屋外活動などは積極的に取り入れ、生活に閉塞感がないよう支援を行った。
  - 人材の確保、育成
    - オンライン研修による職員の知識・技能向上を推進した。
  - 地域貢献活動
    - 地域の各種会議に参加
    - 地域の清掃活動に参加
  - 改修工事
    - 改修無し。
  - その他
    - 職員や職員の家族にコロナ感染者や濃厚接触者が多数発生したが、施設内感染は無かった。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	95.1%	91.4%（▲3.7%）
平均要介護度	2.8	2.2（▲0.6）
単価（人・日）	11,885円	11,751円（▲134円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名　ショート-10名】

平成デイサービスセンター都筑（通所介護）【定員：22名】

高齢者事業

ヴィラ都筑（特養）【定員：入所-110名　ショート-10名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益及び稼働率
      - 本入所
        - 2022.12月に発生したクラスターの影響で、年度後半は稼働率が94%まで減少したが、6-11月まで稼働維持により年間平均稼働率としては、前年度比0.7%減で留めることができた。
        - LIFEフィードバックを活用し栄養の評価見直しを行い経口維持加算の算定と褥瘡マネジメント加算IIを算定した。また介護職員等ベースアップ等支援加算を算定することで、利用者単価が+143円となった。日常生活継続支援加算IIを維持することで収益維持を行い、また口腔衛生管理加算IIの対象者を拡大した。
        - 認知機能低下やBPSDの方の受け入れを積極的に取り組み、平均介護度の増加+0.1となった。
      - ショート
        - 入所待機者を積極的にショートステイで受け入れることで利用者数を増やすことができ、稼働率は前年度比8.9%増となったが、その分、長期利用による減算により単価が下がった。
        - 介護職員等ベースアップ等支援加算を算定した。
    - 収支改善
      - 本入所の待機者獲得を最優先とし、ショートステイでの受入れを実施すると共に、病院との連携調整を強化した。
      - 医療対応の必要な利用者の受け入れ維持により医療対応促進助成金の申請を継続した。
      - 前年度84名、今年度86名の入院者数、受診件数は前年度651件、今年度566件となり、入院にならない早期受診の取組みにより、入院による稼働率の大幅な低下を防ぐことができた。
      - 物価高騰とエネルギー費高騰により支出が増えたが、節電と助成金申請により補填に努めた。

- サービスの質
  - 介護サービスの質の評価とLIFEのフィードバックを活用し施設利用者の傾向を認知し多職種連携の強化と協働した。
  - クラスター発生を経験し、職員の再教育と感染予防策の徹底実施を行い、安心・安全の生活環境のサービス提供を実践した。
  - 利用者のIADLに答えられる生活環境の見直しを行い、行事食やADL低下後も見た目にこだわった食事提供を実施した。
  - 生き物と共に生活する環境の提供を目的とし、施設ドッグとのふれあい、メダカの育成　ビオトープの導入、園芸活動の提供にてレクリエーションの強化を実践した。
- 人材の確保、育成
  - 新卒介護士の育成、卒後3年クリニカルラダーを修了しキャリアアップの為退職。新たに介護士学校より新卒介護士の受け入れが出来た。
  - 職員離職者は21年度16名、22年度18名、入職者は21年度25名、22年度21名とコロナ禍の家庭事情での退職が目立ったが、良好な職場環境維持改善により入職者が退職者を上回った。
  - 技能実習生2名が技能3号へ、1名が特定技能に移行し退職。2名は介護技術の獲得と日本語検定の勉強支援、生活支援を行い、介護福祉士の国家試験への準備に取り組んだ。
  - 介護認知症研修、ユニットリーダー研修を修了し職員教育の強化が出来た。
  - 看護師夜間代理オンコールを導入し、介護職が夜間安心して勤務できる環境を整えた。
- 地域貢献活動
  - 市営勝田団地自治会の定例会に参加し、介護サービスの案内、住民情報共有を実施した。また集会場にて介護予防の資料を作成し自宅でできるロコモティブシンドローム予防とストレッチを提案した。
  - 新型コロナウイルス感染防止のため中学生職業体験を行えなかったが、学校との情報交換を行った。
- 改修工事
  - 電子錠設備
  - 貯水槽モーター故障修理
  - エコキュート3号機故障修理
  - 非常照明器具交換

- 主な指標
  - 入所　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	99.1%	98.4%（▲0.7%）
平均要介護度	3.8	3.9（+0.1）
単価（人・日）	15,024円	15,167円（+143円）

  - ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	64.4%	73.3%（+8.9%）
平均要介護度	3.2	3.1（▲0.1）
単価（人・日）	15,208円	15,165円（▲43円）

平成デイサービスセンター都筑（通所介護）【定員：22名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 通所介護の延べ利用者数を昨年度に比べて毎月100人増となり、総合事業の延べ利用者数が減ったことにより、稼働率の内訳が変わり増収につながった。
      - コロナ感染管理を事業所へ十分説明することで前年度のコロナ利用控えの影響を最小限にすることが出来、収益を維持した。
      - 介護職員等ベースアップ等支援加算を算定した。
    - 稼働率
      - デイサービス質の改善と営業活動強化により前年度比＋7.8%の稼働率となった。
      - 食事とデザートの他事業所との差別化を営業資料に反映させ、問い合わせ件数を増加することが出来た。
      - 新規事業所への営業を実施し、新規利用者の獲得を強化した。
    - 収支改善
      - コロナの影響で12-1月の介護・利用者収入が落ち、加えて物価高騰、エネルギー費高騰の影響による支出・修繕費の支出が増えた。
      - 節電プログラムを実施しエネルギー使用量の無駄を削減した。
  - サービスの質

- 園芸・ガーデニングを取り入れレクリエーションの強化
- 食事・デザートのおもてなし強化
- プライベート空間を保ち、人目を気にせず個室静養できる環境の整備
- 感染対策実施の徹底
- デイサービスに庭とウッドデッキを作成
- 竹藪の整備　竹資材の活用

○ 人材の確保、育成

- 介護サービス企画部の指導を受け、デイ職員の職場環境整理とレクリエーション企画の実現によりやりがいのある職場を作ることが出来た。
- 過去に離職した職員から職場環境改善を評価してもらい、再就職につながった。。
- 通所介護組織体制整備に沿って、デイサービス責任者の選出を行い、施設内の人材育成に取り組んだ。
- 無資格職員が介護認知症研修を受講し教育の強化が図れた。

○ 地域貢献活動

- 勝田団地自治体への介護サービス相談会を実施し月1回の訪問を実施
- 幼稚園からの園児活動はコロナ対策中にて延期、情報共有は継続

● 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	68.4%	76.2%（+7.8%）
平均要介護度	1.9	1.9（±0）
単価（人・日）	9,595円	9,675円（+80円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名　ショート-20名】

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ町田（特養）【定員：入所-200名　ショート-20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 本入所
        - コロナクラスターの発生により利用者、職員の感染者が続出し、営業、面談、入所受け入れが思うようにできず、空床日数が増え、前年度より0.7%の減少となってしまった。
      - ショートステイ
        - 新規利用者は年間144名の獲得となり、毎月2回の空床状況のFAX営業の成果が見られた。今年度は利用者よりコロナ陽性者が発生しクラスターとなり4月、8月は利用受け入れを休止したこともあり、前年度より7.1%減となってしまった。
    - 稼働率
      - 本入所
        - 入所申込者は特例入所の申込みや他市の申込者も多く、他市の利用者は全体の40%強となった。入所面談については、コロナの影響もあり迅速な対応ができなかったこともあり空床が続いてしまった。また病院からの新規受け入れなども予定日に入所ができなかったりと影響があった。
      - ショートステイ
        - 緊急ショートの受け入れや医療行為が必要な利用者の積極的な受け入れ、また入退所が多い日は利用者のご希望に添えるよう受け入れを行った。
        - 特養の空床をショートステイのキャンセル待ちの方にお声をかけ迅速な対応を行った。
    - 収支改善
      - 入所の空床利用で緊急ショート受け入れや利用日数の延長も対応可能であるなど声掛けを行った。
      - コロナによるクラスターによる利用者療養期間中のサービス提供体制確保事業補助金の活用。（東京都）
      - 物価高騰による支援事業として介護サービス物価高騰緊急対策支援金の活用。（東京都、町田市）

  - サービスの質
    - 感染対策に力を入れ、職員一人一人が高い意識を持つよう努めた。

- ■ ユニットごとでのイベント・レクリエーションの実施。
- ■ 感染対策を考慮し、少人数でのクラブ活動の実施。

○ 人材の確保、育成

- ■ 介護技術研修、マネジメント研修等オンライン研修の参加。
- ■ 技能実習生3名が2号から3号へ移行。令和5年度の介護福祉士国家試験受験に向けての学習。
- ■ 介護課の組織体制トレーナー、マネージャーが介護技術研修など人材育成に取り組むことができた。

○ 地域貢献活動

- ■ 月1回第一火曜日（武蔵丘団地）、３週間に一度金曜日（丸山団地）地域支え合い活動として近隣の団地の高齢者の買い物ツアーの送迎を実施。

○ 改修工事及び備品購入

- ■ エコキュート１号機、２号機、５号機故障修理
- ■ 消防設備不良箇所整備
  ○消火器期限切れのため入れ替え
  ○非常照明設備修理
  ○防火戸修理
- ■ スチームコンベクション新規購入
- ■ 解析付心電計新規購入

● 主な指標

○ 入所　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	98.7%	98.0%（▲0.7%）
平均要介護度	3.5	3.6（＋0.1）
単価（人・日）	14,455円	14,615円（+160円）

○ ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	97.4%	90.3%（▲7.1%）
平均要介護度	3.2	3.1（▲0.1）
単価（人・日）	14,614円	14,556円（▲58円）

平成デイサービスセンター町田（通所介護）【定員：20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 2022年6月より個別機能訓練加算（I）イ、（II）が算定可能となった。利用者の定着により安定した収益が得られた。
      - 介護職員等ベースアップ支援加算の算定。
    - 稼働率
      - 年間の新規利用者は10名程度であったが、利用日数増や利用者の急な休みも少なく稼働率は12.7%増となった。
    - 収支改善
      - 新規利用者と利用日数増加により稼働率は毎月上昇し、年度平均稼働率は97.4%となった。

  - サービスの質
    - 感染対策を徹底し食事、おやつなど食レクを取り入れ利用者に喜んでいただけるレク活動を実施した。
    - 利用者への個々のこだわりも強いため、一人一人の個性を把握し、気持ちよく一日を過ごしていただけるよう配慮していった。

  - 人材の確保、育成
    - 介護常勤1名が退職、1名が常勤からパートへ変更し、介護職員の人員不足と人材育成が難しかった。

  - 地域貢献活動
    - 近隣の商店からの出前レクや、好評な生け花など地域に寄り添い、コロナ渦でも楽しめるレクリエーションを実施。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	81.9%	94.6%（+12.7%）
平均要介護度	2.0	2.0（±0）
単価（人・日）	9,194円	9,467円（＋273円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名　ショート-20名】

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

高齢者事業

ヴィラ神奈川（特養）【定員：入所-140名　ショート-20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 特養はサービス提供体制加算Iから日常生活継続支援加算IIに変更、介護職員等ベースアップ等支援加算算定となったことで平均利用単価が上がった。
      - ショートは介護職員等ベースアップ等支援加算算定となったことで平均利用単価が微増となった。
    - 稼働率
      - 特養は、コロナの影響やご入居者様の体調不良に伴う入院やご逝去等の退所件数が増え、稼働率が低下した。
      - ショートステイはコロナによる利用控えは減り、特養の空床を利用し、昨年より稼働率を向上できた。
    - 収支改善
      - 稼働率の維持・向上に重点を置いた。
      - 日常生活継続支援加算の算定継続に向けて取り組んだ。
      - コロナ発生時、サービス提供体制確保事業補助金を活用。
      - 物価高騰・水道光熱費の高騰に対し、横浜市の物価高騰対策支援を受け、施設内においても節電・節水の啓発を行った。
  - サービスの質
    - 感染拡大の防止、サービスの継続に努めた。
    - 感染対策を考慮した施設内で実施できるイベント・レクリエーション、クラブ活動の実施。
  - 人材の確保、育成
    - オンライン研修を中心として、各種研修に参加した。
  - 地域貢献活動
    - 地域の社会福祉施設幹事会に出席し、社会福祉協議会主導の近隣団地内の高齢者送迎サービスの計画・運用を行った。
  - 改修工事
    - 消防点検時の不備箇所（煙感知器の交換）
    - 空調・洗面台修理等

- 主な指標
  - 入所

※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	99.2%	95.9%（▲3.3%）
平均要介護度	3.9	4.0（+0.1）
単価（人・日）	14,647円	15,090円（+443円）

  - ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	94.4%	100.8%（＋6.4%）
平均要介護度	2.8	2.8（±0）
単価（人・日）	14,389円	14,409円（＋20円）

平成デイサービスセンター神奈川（通所介護）【定員：20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 栄養アセスメント加算の算定率の向上、介護職員等ベースアップ等支援加算の算定により、平均利用単価が微増となった。
    - 稼働率
      - コロナや体調不良により欠席される方も多かったが、サービス利用回数を増やしたい方を積極的に受け入れ、稼働率を維持できた。
    - 収支改善
      - 感染症対策を徹底し、サービス提供を継続できた。
      - 物価高騰・水道光熱費の高騰に対し、横浜市の物価高騰対策支援を受け、施設内においても節電・節水の啓発を行った。
  - 人材の確保、育成
    - オンライン研修を中心に研修に参加した。
  - サービスの質
    - レクリエーションの内容を日替わりとし、週に複数回利用されても飽きがこないように工夫した。
    - 感染対策に配慮し、食事レクや歌唱のレクを行った。
  - 地域貢献活動
    - 地域の社会福祉施設幹事会に出席し、社会福祉協議会主導の近隣団地内の高齢者送迎サービスの計画・運用を行った。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	80.3%	80.4%（+0.1%）
平均要介護度	2.0	2.0（±0）
単価（人・日）	9,317円	9,322円（+5円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名　従来型-60名　ショート-20名】
グループホーム板橋【定員：18名】
ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

その他事業

大谷口地域包括センター（地域包括）

高齢者事業

ケアホーム板橋（特養）【定員：ユニット-140名　従来型-60名　ショート-20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 本入所
        - 2023年1月以降コロナによる入院で空いた居室をうまくコントロール出来ず稼働率に大きな影響がでた。
        - 入院が多く、再入所と新規入所のコントロールがうまく調整出来なかった。
      - ショートステイ
        - 新型コロナウイルス感染症の影響でキャンセル発生率が増えた。また、営業等の実施が低下し予約や利用率に影響を与えた。
    - 稼働率
      - 本入所は目標の（ユニット）98.5%に対して94.1%、（従来）98%に対して95.4%の稼働。
      - ショートステイは目標85%に対して77.9%の稼働。
    - 収支改善
      - ショートを利用しながら入所待機待ちをされている方について、スムーズに本入所への切り替えを行うことで、空床を減らし減収を防いだ。
      - 問い合わせに対し、お待たせすることのないよう必ず対応出来るようにした。
  - 人材の確保、育成
    - 研修の実施
      - 実践に即した体験型研修の実施
      - 外部研修への積極的WEBによる参加と資格取得の支援
        - 無資格者への認知症基礎研修の受講を推進
        - 介護職員の喀痰吸引等研修の受講を推進
      - 介護職員喀痰吸引
  - 地域貢献活動
    - 地域貢献活動の充実
      - 新型コロナウイルス感染症の為、地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加は思うように実施できなかったが、自治会主催の

架け橋まつりや、消防訓練の打ち合わせに参加した。

- ○ 改修工事
  - ■ 特になし

- 主な指標
  - ○ 入所（ユニット型）　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	97.3%	94.1%（▲2.9%）
平均要介護度	3.7	3.7（±0）
単価（人・日）	15,200円	15,060円（▲140円）

  - ○ 入所（空床型ショート含む）（従来型）

	2021年度	2022年度
稼働率	98.1%	95.4%（▲4.4%）
平均要介護度	3.7	3.8（+0.1）
単価（人・日）	13,123円	12,874円（▲249円)

  - ○ ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	90.3%	77.9%（▲23.6%）
平均要介護度	3.0	3.0（±0）
単価（人・日）	15,572円	15,672円（+100円）

グループホーム板橋【定員：18名】

- 事業報告の概要
  - ○ 業績等
    - ■ 収益
      - ● 満床の維持により、前年比でわずかに増収
    - ■ 稼働率
      - ● 稼働率は入床平均18.8人の98.4%
    - ■ 収支改善
      - ● 早めに入所案内や書類の用意を行う事で稼働率アップに繋がった。
      - ● 特養（SSを含む）・ケアハウスからのグループホームへの入居。

- ○ サービスの質
  - ■ 複合施設としての強みを生かす（Ns、PT、OT、ST、RDとの連携）。
- ○ 人材の確保、育成
  - ■ 認知症スペシャリストの養成
    - ● 東京都企画の研修への参加
- ○ 地域貢献活動
  - ■ 特養に準ずる

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	97.8%	98.4%（+0.6%）
平均要介護度	2.2	2.8（+0.6）
単価（人・日）	14,412円	14,718円（+306円）

ケアハウス板橋（都市型軽費老人ホーム）【定員：一般-20名】

- 事業報告の概要
  - ○ 業績等
    - ■ 収益
      - ● 退居後のリカバリーが若干遅かったことと、入院者が出たことで全体の収益は減収した。
    - ■ 稼働率
      - ● 年間の入所4件・退所6件、稼働率は97.7%。
    - ■ 収支改善
      - ● 空床発生に備え、常時4件の待機に努めたが、退所後の待機者獲得に苦労した。後半は福祉事務所・居宅への営業で徐々に回復した。
  - ○ サービスの質
    - ■ 趣味の充実を図る
      - ● 新型コロナウイルス感染症の為、密を避ける工夫で入居者の交流スペースを確保した。
      - ● 映画鑑賞会、食レクを実施した。
  - ○ 人材の確保、育成
    - ■ 特養に準ずる。
  - ○ 地域貢献活動
    - ■ 特養に準ずる（特養と協働して行う）。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減
  - 一般

	2021年度	2022年度
稼働率	97.2%	97.7%（+0.5%）
単価（人・日）	7,643円	7,774円（+131円）

その他事業

大谷口地域包括センター（地域包括）

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 職員の退職に伴い総プラン数が減少した。
    - 収支改善
      - 人員配置の適正化、業務の効率化の実施
  - サービスの質
    - 近隣住民や居宅事業所との連携。緊急時の速やかな対応と緊急避難的入所の対応。
  - 人材の確保、育成
    - 包括の事業を理解し、包括の全職員が対応できるように、区主催の研修に参加
  - 地域貢献活動
    - 老人クラブへの出前出張講座の実施。
    - 小地域ケア会議の実施。
- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
ケアプラン数	3,617名	3,327名（▲290名）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名　ショート-18名】

高齢者事業

ケアホーム葛飾（特養）【定員：入所-120名　ショート-18名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 申込者への迅速な対応とショートステイから本入所への切り替え対応等を積極的に行ったが、コロナ禍での運営による影響、昨年度にも増して多数の入居者の入院発生による影響を受ける形となり、収益は前年度比2.6%減となった。
      - ショートステイは、コロナ禍での運営に苦慮したが、特養空床利用も積極的に進めたことにより、収益は前年度比7.5%の増加となった。
    - 稼働率
      - 本入所は2022年度の目標98.4%に対して実績96.2%で未達であった。上半期平均は97.0%、下半期も95.4%と盛り返せず▲2.2%のGAPを生み出す結果となった。
      - ショートステイは2022年度の目標96.5%に対し実績100.9%。入所要件を満たせない方、医療依存度の高いご利用者様や緊急ショートの受入れを積極的に行った結果、目標達成となった。
    - 収支改善
      - 本入所は待機者の確保と入所待機中の方のショートステイでの受入れを促進し、必要に応じて本入所への切り替えを行い稼働率の安定化を図った。
      - ショートステイについては迅速な対応を心掛けるとともに、利用希望に対して原則受入れをお断りせず、地域活動やケアマネジャーとの交流会に積極的に参加する等、営業活動に注力した。
      - 入院者の増加、コロナ感染症の影響による稼働率の低下、また物価高騰の影響から水道光熱費が昨年度比+33.9%となる中、人件費の前年度比＋0.5%と微増に留め、各部署間の連携強化、各部署の組織体制強化、職務分掌の明確化等を推し進め、結果として施設運営力の向上につながり、収支減少を最小限に留めた。
  - サービスの質
    - 2022年度は介護職員等のたんの吸引研修を3名が受講し修了した。
    - 2022年度より新たに看取り対応を開始した。
    - 新入職員への研修内容の充実、また接遇、特に挨拶に関する取り組みを強

化し、利用者様・家族様が安心して利用できる施設運営に努めた。

- ○ 人材の確保、育成
  - ■ 開設3年目、昨年度に引き続き各部署に役職者を立て、組織としての地盤を固める年となった。また、SNS等も積極的に利用し、当施設にて働くイメージを分かりやすく発信することにも注力した。
- ○ 地域貢献活動
  - ■ 昨年度同様にコロナ禍で十分な地域交流・貢献活動ができなかったが、全国各地のお茶農家と当施設をオンラインで繋ぎ、ご利用者様と現地の方との交流の場を提供する等の取り組みを継続した。
  - ■ 月1回程度の頻度で施設近隣の駅周辺の環境美化活動に参加した。
- ○ 改修工事
  - ■ なし
- ○ その他
  - ■ コロナ関連の補助金を最大限活用し、感染対策物品を十分に手配し利用者・職員の安心安全の確保に努めた。

- 主な指標
  - ○ 入所

※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	97.7%	96.2%（▲1.5%）
平均要介護度	4.0	4.0（±0）
単価（人・日）	15,437円	15,260円（▲177円）

- ○ ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	94.5%	100.9%（+6.4%）
平均要介護度	3.2	3.3（+0.1）
単価（人・日）	15,683円	15,748円（+65円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名　ショート-20名】

高齢者事業

ケアホーム住吉（特養）【定員：入所-100名　ショート-20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 本入所は2年目を迎え、開設年より20%以上の稼働率改善はできたが、2022年度の単月実績で黒字を達成できなかった。
      - ショートステイは新規利用者様の獲得に苦戦する時期があったため稼働率をあげることができず収益に大きな影響が出た。
    - 稼働率
      - 本入所は目標97%に対して実績97.1%であった。目標は達成したもの年度始まりの稼働率が悪かったため、その影響で年間平均の稼働率が下がってしまった。
      - ショートステイは目標75%に対し実績65.6%であった。特養と同様に目標は達成したもの年度始まりの稼働率が悪かったため、その影響で年間平均の稼働率が下がってしまった。10月以降は入所待機者をショートステイで受け入れ調整を進めることができ、稼働率が徐々に改善した。
    - 収支改善
      - 営業等による新規利用者様を獲得。その後面談、入所までの時間をかけないように対応する事で空床を減らすことで収支の改善を図った。
      - ショートステイは緊急短期入所受入加算を算定した。入所待機者をショートステイ利用につなげ収支の改善を図った。
  - サービスの質
    - 毎月　施設内研修を実施し、職員の介護時術や感染対策、接遇面の向上に資するための勉強会を積極的に開催した。また、感染症については実践に即した体験型研修を実施した。
    - 無資格者への認知症基礎研修を1名、介護職員職員者研修を4名受講した
    - 2022年度中に認定特定行為業務従事者として施設登録を完了。介護士・看護師で喀痰吸引が必要な利用者様を対応。

  - 人材の確保、育成
    - グループで進めている「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」における評価者（アセッサー）講習を1名が受講。

- ■ 離職予防のため、OJTプログラムを改善し、入職者との関係を密にするとともに細やかな指導を行った

- ○ 地域貢献活動
  - ■ コロナ禍で十分な地域交流・貢献活動ができなかったが、灘のだんじり祭りに協賛し施設地基地内から祭りに参加した。また、定期的な広報誌の作成やホームページの情報更新に努めた。
- ○ その他
  - ■ コロナ関連の補助金を最大限活用し、感染対策物品を十分に手配し利用者・職員の安心安全の確保に努めた。

- 主な指標
  - ○ 入所

※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	68.0%	97.1%（+29.1%）
平均要介護度	3.9	3.7（▲0.2）
単価（人・日）	14,478円	14,789円（+311円）

- ○ ショート

	2021年度	2022年度
稼働率	33.8%	65.6%（+31.8%）
平均要介護度	3.3	3.2（▲0.1）
単価（人・日）	14,695円	15,063円（+368円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

高齢者事業

グループホーム渭北【定員：18名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 要介護度の増加により単価は上がっている、栄養管理体制加算の追加と10月より介護職員等ベースアップ等支援加算の算定に伴い、年間収益は上がった。
    - 稼働率
      - 年間を通して入退居はあったが退居後の新規受け入れに協力機関との連携により前年度より空床の期間が短縮できた。
    - 収支改善
      - 算定可能な加算を取りこぼしなく算定するよう努めた。
      - 業務の見直しを行い無駄を無くすよう努めた。
      - 電気代高騰の為、節電に努めた。

  - サービスの質
    - 新型コロナウイルスの影響で面会禁止の為、入居者様・ご家族様にオンライン面会を行った。オンライン面会が難しい方には電話での対応やお顔が見えるように窓越しの面会を行った。
    - 面会禁止の為、施設での様子がわかるようご家族様へ写真と代筆でお手紙を書き郵送した。
    - 新型コロナウイルスの影響で外出行事が中止となったため、それに代わる室内行事を考え、外出した気分を味わえるよう外部よりお弁当やお菓子を準備したりお花見時期には桜の映像を流したりと密にならず一人一人が楽しめるよう工夫した。

  - 人材の確保、育成
    - 施設外勉強会へのzoomでの研修への参加や施設内での勉強会やe-ラーニングの活用により知識の習得に努めた。
    - 年明けに職員の定年退職者が1名パート職員の退職者1名あったが替わりの職員1名の入職があった。

- ○ 地域貢献活動
  - ■ 地域交流
    - ● 渭北地区防災訓練への参加
    - ● 地域こども園とのお手紙や作品の交換での交流
    - ● グループホーム入居者様の作品の展示(渭北コミセン）や地域との交流の継続

- ○ 改修工事
  - ■ 下水排水ポンプの修理

- ● 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	96.7%	95.8%（▲0.9%）
平均要介護度	2.5	2.7（+0.2）
単価（人・日）	12,308円	12,472円（+164円）

平成デイサービスセンター渭北（通所介護）【定員：23名】

- ● 事業報告の概要
  - ○ 業績等
    - ■ 収益
      - ● 通所型サービス利用者様の減少により要介護比率の増加
      - ● 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定、通所介護サービス利用者様の割合が増えたことにより全体の利用単価の増加
      - ● 稼働率0.2%増加・個別機能訓練加算の曜日の追加をおこなった結果増収
    - ■ 稼働率
      - ● ショート利用者数の増加、キャンセルの方の振替が少なかったものの最終的に稼働率は微増
    - ■ 収支改善
      - ● キャンセル時の振替の声掛けの継続
      - ● 個別機能訓練加算曜日の追加（週5日→週6日）/出向の機能訓練指導員中止時の加算取得に向けての取り組み
      - ● ADL維持等加算の継続した算定への取組み
      - ● 業務の見直しの継続

- 退院後の利用・コロナ自粛をされていた方へのアプローチを継続

○ サービスの質
- ■ 感染対策を取りながら工夫のあるレクリエーションの実施
- ■ どの曜日でも個別機能訓練加算の算定可能な状態に移行
- ■ 運動不足解消のための体操・リハプロの継続
- ■ 重度利用者（胃ろう・バルーン使用）を受け入れる為の研修の実施

○ 人材の確保、育成
- ■ 職員の意識・接遇・技術向上に向けた勉強会（e-ラーニング研修）の継続
- ■ 職員の意見交換・情報共有の実施（職員会議・書面等）
- ■ 未資格者の基礎研修受講

○ 地域貢献活動
- ■ デイ利用者様の作品の展示(渭北コミセン）や介護相談などの地域との交流の継続
- ■ 渭北地区の防災訓練の参加

○ 改修工事
- ■ 洗面台水道蛇口の修理
- ■ 特殊浴槽の入出浴用電動ボールバルブ交換
- ■ パントリー水道蛇口の修理

○ 新型コロナウイルス感染対策
- ■ 消毒・換気の徹底などの環境整備
- ■ 送迎車の消毒・利用者様受け入れ時の健康状態の観察強化
- ■ 利用者様・職員の健康管理・体調不良時に休める体制づくり

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	75.7%	75.9%（+0.2%）
平均要介護度	1.6	1.7（+0.1）
単価（人・日）	7,672円	8,068円（+396円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

八万小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム八万【定員：18名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 平均要介護度、稼働率とも増加し、10月より介護職員等ベースアップ等支援加算の算定も増え、収益は前年度より増加した。
    - 稼働率
      - 急変による入院、退居や、体調不良による入院が続き、2月だけ90%を下回ったが、他の月はほぼ安定したため、前年度よりも1.9%増となった。
    - 収支改善
      - 協力病院との連携の強化を行い、稼働率の低下を防いだ。
      - 電気代の値上がりに対して施設全体で節電に努めた。

  - サービスの質
    - 新型コロナウイルスの影響で、遠足などの外出は出来なかったが、春には施設の駐車場の見事な桜の下で、お茶と和菓子を頂きながらお花見をしたり、外食した気分を味わって頂けるようなレストランのお弁当を召し上がって頂いたり、少しでも楽しい時間を過ごして頂けるよう工夫を凝らした。
    - 1F中庭ではプランターに色々な花を植えたり、夏野菜を植えて毎日成長を楽しみに育て、夏野菜は収穫して美味しく召し上がって頂いた。ラジオ体操やリハビリ体操を毎日行い、また理学療法士の指導の下リハビリを行い、ADLの低下予防を行った。
  - 人材の確保、育成
    - 年明けより夜勤専従のパートが1名入職し、年間を通して安定した職員数を確保できた。
    - 職員1名が介護福祉士の資格を取得し、常勤は全員介護福祉士となった。
  - 地域貢献活動
    - 新型コロナウイルスの影響で、今年度も行事の中止が多く、参加の機会は殆どなかった。しかし、町内清掃は5月、12月と参加でき、町内の方との久しぶりの交流が行えた。
    - 災害時の避難場所は継続。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	94.9%	96.8%（+1.9%）
平均要介護度	2.4	2.9（+0.5）
単価（人・日）	12,349円	12,538円（+189円）

八万小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 新規利用の方もいたが、入院等もあり、前年度と比較し月平均▲0.4人の減少。前年度比0.2%減収となってしまった。
      - 重度な方の受け入れも積極的に行ったことにより平均要介護度は1.7から1.9に上がったため、1人当たりの単価としては2,030円増額となった。
    - 稼働率
      - 年間平均は89.9%と前年度より減少したが、2022年度後半には徐々に増加し、3月は96.6%まで回復した。
    - 収支改善
      - 居宅や包括が在宅での生活が困難と感じている重度な方を積極的に受け入れ、平均介護度も上昇した。ただ、重度な方は入院のリスクも高い方も多く、利用をしていただいてもすぐに入院や施設入所となる事もあった。
      - 利用者様にご迷惑をかけないように気をつけながら、無駄な電気を使わないようこまめな節電を心掛けるとともに、施設内の電気をAEDに変えて消費電気量を抑えることができた
  - サービスの質
    - 職員の入れ替わりがほとんどなく、安定しているため、利用者の方も安心してなじみの関係を作ることができた。
    - コロナが長く続き、なかなか思うように帰県できないご家族や県内でも別に住んでいらっしゃるご家族が不安にならないよう、こまめに連絡を入れ状況をお伝えし、ご家族のお話を伺ったりしながら信頼関係を築けた。
    - コロナ陽性者が出た時も、連携病院の協力を得て陽性者の方を病院へつないだり、他の利用者の方が不安にならないよう感染対策を十分にとりなが

ら必要に応じては訪問に切り替えるなど柔軟な対応により、サービス提供が止まらないよう小規模ならではのサービス提供を行った。

- 感染対策でレクリエーションも制限はあったが、施設駐車場内の桜の木の下で花見をしたり、いろいろな行事を取り入れながら季節を十分に味わっていただき、笑顔で楽しんでいただけるサービス提供を行った。

○ 地域貢献活動

- 町内会の一員として町内会活動などに参加したているが、2022年度も、コロナの影響で、町内運動会などは中止となった。行事参加の機会は減ったが、年に2回の町内会清掃は積極的に参加し、町内の方と交流を行うことができた。

● 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
登録率	90.8%	89.9%（▲0.9%）
平均要介護度	1.7	1.9（＋0.2）
単価（人・月）	192,751円	194,781円（+2,030円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　那賀町鷲敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

高齢者事業

那賀町鷲敷デイサービスセンター（通所介護）【定員：35名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 介護予防の利用者数は増加したため、収入は80万ほど増、コロナ補助金もあり全体的には増えたように見えるが、通所介護の利用者数は入所やショートが増えたため、通所介護の収入は10%程減。
      - 体験・新規も前年度よりは多かったが持ち直さなかった。無料体験会を実施し利用者獲得を試みたがすぐには繋がっていない。

    - 稼働率
      - 営業活動にも力を入れたがショート・入所・入院の利用者が増え稼働率の持ち直しは厳しかった。
      - 新規・体験者数は前年度よりは増加したが、稼働率増加までには繋がらなかった。
    - 収支改善
      - 業務の効率化を図るため、各業務の人員配置の見直し
      - 営業活動や口コミでの利用者確保を実施
      - 無料体験会の実施で利用者確保試みる
      - ミーティングにて備品の使用頻度などの確認・改善
      - 加算算定
        - 感染症等対応加算（3%加算）(10月のみ算定）
        - サービス提供体制強化加算（I）22単位引き続き算定
  - サービスの質
    - 利用者目線で残存機能の低下防止
    - 職員の個々の技術面を生かし全員で利用者目線のサービスの提供
    - 電動バイクの購入により自転車の機能訓練者増加
      - 以前は怖くてできないと言っていた方の利用が増えた

  - 人材の確保、育成
    - 勉強会の実施

  - 地域貢献活動
    - 自立支援ケア会議への参加

- ■ 地域ケアカンファレンスへ参加
- ■ ケアホームと一緒に防災教室開催

○ 改修工事

- ■ エアコン修理

○ 新型コロナウイルスへの対応

- ■ 基本的な感染対策の徹底
- ■ 職員・利用者の体調管理の把握
- ■ 職員感染のため利用者検査実施（拡大することなく終息）

● 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	62.3%	62.9%（＋0.6%）
平均要介護度	1.6	1.5（▲0.1）
単価（人・日）	7,759円	7,670円（▲89円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

平成在宅介護支援センター平田（居宅）

高齢者事業

平成デイサービスセンター平田（通所介護）【定員：50名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 2022年度は新たな加算算定（個別機能訓練加算II）したが、3月末で常勤看護師が退職となったため、個別機能訓練加算（I）イ＝56単位（機能訓練士1名/日）と個別機能訓練加算（I）ロ＝85単位（機能訓練士2名/日）が個別機能訓練加算I（イ）のみ算定となり減収とはなったが、微量ながら補えた。
    - 稼働率
      - 平均稼働率90.5%/年は獲得でき、体験利用者も45名/年（昨年度比+3名）、新規利用者は42名/年（昨年度比+1名）獲得できた。
    - 収支改善
      - コロナの影響により、外部委託リフレクソロジー等マッサージが中止となり、一部費用が減少
  - サービスの質
    - 1階と3階のフロアを使ってのサービス提供はゆったりとした空間で過ごしていただき、転倒事故防止に繋がっている。
    - 卓上でのレクが多くなるため、創作活動を取り入れ、自作の作品を持って帰って飾っていただくレクが好評であった。
    - ウォーターベット型マッサージ器の導入により、リフレクロジーが充実し好評を得ている。
    - 大型TVの設置によりYOUTUBEを使っての体操や脳トレを実施し、余暇時間の充足を図っている。
    - 1階フロアにソファベットを設置により体調不良者の対応を即時行え使用しない時はソファとして使えるため、空間を無駄なく利用できている
    - 毎月行っている自施設での勉強会には介護・看護の全職員が参加しており、内容を充実させ職員一人一人の質を向上し、施設のレベルアップを図った。
  - 人材の確保、育成
    - 3月末で常勤看護職員の退職があり、加算算定に影響、他看護職員に負担が増大するため急募中。
  - 地域貢献活動
    - 岩国市シルバーハウジング委託業務にて住居者の生活相談を行った。
  - 改修工事・設置工事
    - 給水管からの漏水工事
    - ボイラー真空管取り換え工事
    - 自動水栓の設置
    - 大型TVを壁掛けに設置

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	92.3%	90.5%（▲1.8%）
平均要介護度	1.8	1.7（▲0.1）
単価（人・日）	8,630円	8,509円（▲121円）

平成在宅介護支援センター平田（居宅）

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 前年度よりケアプラン数を33件増やすことができた。2022年10月より特定事業所加算IIIの算定を行ったことで約250万円/年の増収となった。
    - 収支改善
      - 特定事業所加算IIIの算定をすることで収益は増大となり、その他の加算（初回加算や入院時、退院時など）も取りこぼさずに算定することができた。
  - サービスの質
    - 概ね週1回の居宅内での会議を行うことで一人一人介護支援専門員のスキル向上や質の高いケアマネジメントを行うことができた。
  - 人材の確保、育成
    - 令和4年度は常勤3名、非常勤1名で変動なく業務を遂行することができた。
    - 介護支援専門員としての資質向上、専門的知識、技術向上を図るため、外部研修やグループ内研修に積極的に参加した。事例検討会を主催したり地域で行われた地域ケア会議にも参加した。
  - 地域貢献活動
    - 地域からの相談に応じ、必要に応じて相談援助を行った。
- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
ケアプラン数	1,613名	1,646名（+33名）
平均要介護度	2.0	1.9（▲0.1）
単価（人・月）	11,495円	12,826円（+1,331円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

平成ホームヘルパーステーション黒磯（訪問介護）

高齢者事業

平成デイサービスセンター黒磯（通所介護）【定員：35名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 稼働率の低下に伴い全体的な収入は減収となった。
      - サービス提供体制加算が、従来の加算IIから加算Iとなり増収。
      - 個別機能訓練加算IIの算定開始による増収。
      - ベースアップ等支援加算算定開始による増収。
    - 稼働率
      - 介護度の低い方の施設入所や入院、入所の増加により稼働率の減少。
      - 体験人数の減少。
        - 2022年度　体験者数　42名　内新規獲得　23名
        - 2023年度　体験者数　22名　内新規獲得　19名
      - 関わりのある介護支援事業所の、新規受入れの減少により問い合わせの減少。
    - 収支改善
      - 中国整体、あんま、フラワーアレンジメントが中止となっている事で一部支出の減少。
      - 節電、節水による経費削減の継続。
  - サービスの質
    - 体験・新規利用の際の、事前訪問を継続。
    - 個人の希望に沿うサービス内容の提案。
    - 家族負担の軽減が図れるよう、居室内からの送迎実施。
    - 医療ニーズの高い利用者を受け入れる事で、事前に対応方法を周知し対応。
    - 介護・看護の技術面での向上。
    - 地域連携ツールに参加し、他サービスとの連携を強化でき、主治医との直接の情報共有も図れ、体調変化時の早期対応の継続。
  - 人材の確保、育成
    - 定期的な研修会を実施し、職員の知識向上や技術向上を行う事ができた。
    - 定期的な業務内容の見直し、業務負担の偏りがないように変更した。

  - 地域貢献活動
    - 新型コロナウイルス感染予防の為、保育園の慰問を中止。

  - 改修工事
    - ボイラー自動給水装置交換。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	87.3%	70.9%（▲16.4%）
平均要介護度	2.0	1.9（▲0.1）
単価（人・日）	8,541円	8,487円（▲54円）

平成ホームヘルパーステーション黒磯（訪問介護）

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 前年度に比べ1.4%増収
    - 稼働率
      - 平均利用回数は前年度とほぼ変わりなかった。
    - 収支改善
      - 訪問ルートの見直しや調整により、新規依頼に極力応じていく事で、実人数と延べ人数の増加に繋げることができた。
  - サービスの質
    - 居宅やヘルパー間の連携を密にし、利用者の状況やサービス内容等の情報共有に努め、適切なサービス提供、質の向上を図った。
  - 人材の確保、育成
    - 年間の研修計画に沿って、毎月の研修を全員が参加できるよう複数回実施した。
  - その他
    - 新型コロナウイルスへの対応として、標準予防策を徹底した。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
延べ人数	3,675名	3,780名（+105名）
平均要介護度	2.2	1.9（▲0.3）
単価（人・日）	4,484円	4,420円（▲64円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

グループホーム鳴門【定員：18名】
平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】
鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

高齢者事業

グループホーム鳴門【定員：18名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 稼働率増加に伴い全体の収益が増加した
      - 2022年10月からの介護職員等ベースアップ等支援加算により1人あたりの単価は増加した
      - 希望されている方に生活機能向上連携加算算定を実施した
      - 要介護度平均が前年度より低下したため、1日平均の単価はやや減少した
    - 稼働率
      - 入院や退所も少なく稼働率が安定していた
      - 稼働率は前年度に比べ5.6%増加した
    - 収支改善
      - 業務効率化を進めるため、働きやすい環境への取り組み
      - 備品在庫の把握、無駄がないかの確認・経費削減
      - 必要に応じ介護度の見直しを検討
  - サービスの質
    - レクリエーションでは季節を感じられるように、季節のアイテムを取り入れて楽しめるよう取り組んだ
    - オンライン面会の案内を継続して行い、家族様だけでなく知人の方とも実施することができた
    - 利用者様の意見を取り入れ、感染対策を実施してドライブや買い物出掛けるなど、楽しみを持っていただくことができた
  - 人材の確保、育成
    - 業務内容の見直しを実施することにより、職員の負担軽減を図った
    - 勉強会や研修会参加などによる職員の知識・技術向上を行った
    - 入職・退職者はなく職員数は安定していた
  - 地域貢献活動
    - 地蔵盆への参加を行った（2022年8月）
    - 鳴門市作品展への出品参加を行った（2022年10月）
    - 介護相談員さんと定期的にオンライン面談を実施した

- ○ 改修工事
  - ■ 2階手洗い場自動水栓の交換（2022年6月）
  - ■ エレベーターバッテリーの交換（2022年8月）
  - ■ 3階フロア・居室のLED電球交換工事（2023年2月）

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	93.6%	99.2%（+5.6%）
平均要介護度	2.8	2.5（▲0.3）
単価（人・日）	12,246円	12,238円（▲8円）

平成デイサービスセンター鳴門（通所介護）【定員：25名】

- 事業報告の概要
  - ○ 業績等
    - ■ 収益
      - ● 稼働率向上により全体収益は前年度比で増加
      - ● 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定に伴う増収
      - ● 要介護度上昇に伴う単価の増加

    - ■ 稼働率
      - ● 新型コロナウイルスの影響により自粛される利用者が増加し、12月は稼働率が激減
      - ● 入院や施設入所が重なり稼働率が伸び悩む期間もあったが、昨年度より年間平均4.4%上昇
      - ● 営業活動も工夫し力を入れたが、紹介数は少なかった

    - ■ 収支改善
      - ● キャンセル時の振替徹底
      - ● 営業活動の強化、訪問件数の増加
      - ● 要介護度の上昇
      - ● 業務見直しの継続

- ○ サービスの質
  - ■ 感染対策を継続し、レクリエーションやイベントの質を維持
  - ■ 職員個々の資格や技術を生かし、利用者目線のサービスを提供
  - ■ 重度利用者の受け入れ実施
- ○ 人材の確保、育成
  - ■ 定期的に業務内容を見直し、業務の負担を軽減
  - ■ 職員の意識・接遇・技術向上に向けた勉強会の継続
- ○ 地域貢献活動
  - ■ 新型コロナの影響により地域行事が中止となり、活動が出来なかった
  - ■ ボランティアの招致も出来なかった
  - ■ 地域包括自立支援ケア会議への参加(10例)
- ○ 改修工事・備品修理及び購入
  - ■ 給湯器ボイラーの交換
  - ■ 送迎車両修繕（車検）
- ○ 新型コロナウイルスへの対応
  - ■ 環境整備、感染対策の徹底
  - ■ 職員、利用者の健康管理

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	74.1%	78.5%（＋4.4%）
平均要介護度	1.7	1.9（＋0.2）
単価（人・日）	7,715円	7,722円(+7円）

鳴門小規模多機能センター（小規模）【登録定員：29名】

- 事業報告の概要
  - ○ 業績等
    - ■ 収益
      - ● 前年度より登録者数、平均介護度が上がった事により、収益増に繋がった。
      - ● 介護職員等ベースアップ等支援加算の算定により、収益増に繋がった。
    - ■ 稼働率
      - ● 前年度に比べ、紹介数も多く、登録者数が増加した。

            - 病院との連携を強化し、入退院時の支援を行う事で登録者数が維持する事が出来た。
        - 収支改善
            - 状態の変化に伴い、速やかに介護度の見直しを行った。
            - 備品、消耗品等の使用や購入に無駄がないか確認を行い、経費削減に努めた。
    - サービスの質
        - 通所では感染対策を継続しながら、季節を感じていただける行事や日常的なレクリエーションにも新しい内容を取り入れて楽しんでいただけるように努めた。
        - 訪問では、利用者様の状態や家族様の状態に応じて回数を増やすなど、柔軟にサービスを提供することが出来た。
        - 宿泊についても、可能な限り、サービスを調整し対応することが出来た。
    - 人材の確保、育成
        - 職員数の増減は殆どないが、不足している状態であり、長期の宿泊の依頼が入った時に調整が難しかった。
        - 職員の知識、技術向上の為、定期の勉強会開催や研修への参加が出来た。
        - 業務負担軽減の為、個々の役割分担や業務分担等に偏りがないか定期的に確認を行った。
    - 地域貢献活動
        - 婦人会には入会しているが、コロナの影響で殆どの活動が中止となった為、活動には参加出来なかった。
        - 地域の老人会や自治会、婦人会の会長様との交流は継続し、地域活動や現状を伺うなどし、関係性の維持に努めた。
        - 地蔵盆の準備、実施のお手伝いや地元神社の祭りなどは中止にはならず、活動が出来た。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
登録率	54.0%	58.9%（+4.9%）
平均要介護度	2.0	2.1（+0.1）
単価（人・月）	172,063円	179,259円（+7,196円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：25名】

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

高齢者事業

平成デイサービスセンター徳島（通所介護）【定員：25名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 全体の収益は稼働率の向上により前年度比で増加
      - 介護報酬改定に伴う増収(ベースアップ等支援加算)
      - 要介護度の上昇に伴い単価が向上
      - 個別機能訓練加算の算定日の増加
    - 稼働率
      - 新型コロナウイルスの影響により自粛される利用者や待機される利用者が増え、稼働率が激減した月もあったが、営業活動を強化、訪問件数を増やし紹介数の増加に繋げることができ、前年度よりも増加することができた。
    - 収支改善
      - 営業活動の強化、訪問件数の増加
      - 安定した稼働率の維持の為待機利用者の確保、キャンセル時の振替
  - サービスの質
    - 感染症対策を行いながらレクリエーションやイベントの質を維持、満足頂ける介護サービスの提供体制の推進
    - 接遇の意識、技術向上に向け研修会の実施
  - 人材の確保、育成
    - 定期的な業務内容の見直しを行い、業務負担の偏りがないように実施
      個人個人に役割を与え、責任感の向上
    - さらなる人材の確保のための稼働率の増加、収支向上
    - 未資格者の基礎研修受講
  - 地域貢献活動
    - 新型コロナウイルスの影響により地域行事への参加や実施ができなかった。また、地域のボランティアの招致もできなかった。
  - その他
    - 新型コロナウイルスへの対応
      - 環境整備、消毒など感染対策の徹底
      - 利用者、職員の健康管理

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	77.5%	81.7%（+4.2%）
平均要介護度	1.7	1.9（+0.2）
単価（人・日）	7,275円	7,657円（+382円）

メディケアハウス平成（有料老人ホーム）【定員：20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 常に待機者がいる状態で、空床日数が短く収益増加
    - 稼働率
      - 入退居の調整がスムーズに行え、稼働率増加
    - 収支改善
      - 待機者確保のための営業活動強化
      - 業務内容の効率化、人件費削減
  - サービスの質
    - 家族との外食が難しいため、好きなものを買ってきて食べられる日を設定
    - 少人数での買い物同行
  - 人材の確保、育成
    - 体調不良時に休みやすい職場環境づくり
    - 研修の実施
  - 地域貢献活動
    - 新型コロナウイルスの影響で、地域行事は中止
  - 新型コロナウイルスへの対応
    - 環境整備、消毒などの感染対策の徹底
    - 入居者、職員の健康管理

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	96.2%	99.5%（+3.3%）
単価（人・日）	2,649円	2,714円（+65円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　訪問ステーションてとてと東大阪（訪問看護）

高齢者事業

訪問ステーションてとてと東大阪（訪問看護）

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 全体の収益は前年度に比較し増収
        - 年度末にかけてスタッフの入れ替えがあり、人件費含む事業費が嵩む時期もあったが、トータルとして前年比を上回る結果となる
        - 看護利用者からリハビリ、また逆にリハビリ利用者から看護に繋げるケース増
          - スタッフの意識にも変化あり、トータルした在宅看護サービスの提供が可能になってきている
    - 稼働率
      - 例年通り季節等の影響を受け一時的に稼働率が上下する時期もあったが、トータルとして大幅に稼働率を下げることなく運営
        - 今年度は新型コロナウイルスの影響は大きく反映されず
    - 業務効率の向上
      - 看護部
        - 指示系統を整理するとともに、業務処理の流れ、情報共有を徹底することで連携不足・ミスの改善を図ることができた
          - 年度初めは管理者・リーダー含めて機能しておらず、看護部全体の連携不足やミスが露呈
          - 管理者及び昨年度に配置したリーダー役と頻回な面談やミーティングを実施しマネジメント方法について協議
          - 更に業務分配及び整理を実施することで業務負担の偏りを減らし、効率化を図ることができた
        - 看護部全体のシステム再構築及び看護スタッフ一人ひとりの考え方・意識改革を実施することで業務効率向上できた
          - 訪問看護師として業務に向かう考え方や姿勢について伝えるために全員と面談を実施
          - その際にスタッフの考えを吸い上げるとともに、管理者とスタッフのパイプ役に徹する
          - また看護部全体に発信する場として、看護部のみで

「業務改善会議」を実施し、システムの再構築を図った

- リハビリテーション
  - 看護と同様、一人ひとりの考え方・意識改革を実施
  - 慣れにより怠慢になっていた部分を是正することでモチベーション維持に努めるために定期的な面談を実施

- 訪問人員
  - 看護
    - 2022年度中に看護職員が全体の6割以上には達せず
      - 年度末時点で看護人員は全体の4.1割
  - リハビリ
    - 2022年度中の増減：2名退職＋1名入職
      - 看護人員にあわせて増員検討していく
- サービスの質の確保・人材育成
  - 同行訪問・OJTの実施
    - 職員同士で同行訪問を実施し意見交換の場を設けることで多角的な視点からアセスメントを実施
    - スタッフの特性にあわせた教育体制の強化を図った
  - カンファレンスを定期的に実施
    - 問題点の整理とともに、現在のケア内容や目標の確認・検討できる場を設けた
    - また定期以外にも、適宜カンファレンスや実技指導も実施し知識・技術の底上げを図った
  - 事故を未然に防ぐようにKYTを実施
    - ひとりひとりが事故を未然に防ぐという意識付けを実施
    - 今年度の事故件数
      - 大きな事故無し
      - リハビリはサービス訪問時における転倒・転落事故は0件
- 職場環境の整備
  - 職員同士のコミュニケーションのきっかけ作りを実施
    - コロナ禍で職員同士の業務外のコミュニケーションや他愛のない会話が減少していたため、職員同士を知るきっかけ作りのために朝礼で近況等「ひとこと発信」をする場を設定
      - 少しでも職員のことを知るきっかけになるとともに、会話の種になり、コミュニケーションの機会が増加
      - また、「発信する」能力を養うこともできた

        - 職員との定期的な面談を実施
            - 半期に1回実施
            - 社会的マナーや業務内容等を盛り込んだチェックシートを使用
                - チェックシートをもとに管理者と面談し半期の振り返りと来期の目標を確認
                - 業務だけでなく、些細な疑問や不安な事、必要に応じてプライベートな悩み等も聴取
                - 事業所のハード面や、人間関係等のソフト面から働きやすい環境にしていけるような取り組みを実施
            - その他、必要に応じて随時個別面談も実施
    - 地域貢献活動
        - コロナ禍や人員不足ということもあり、2023年度は地域貢献活動はできず
        - 日々、地域のニーズに応えられるよう、居宅事業所や主治医への挨拶まわりは継続して実施
- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
延べ人数	17,538名	17,672名（＋134名）
平均要介護度	2.7	2.7（±0.0）
単価（人・日）	4,366円	4,435円（+69円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと小平（訪問看護）

ケアプランセンターてとてと小平（居宅）

高齢者事業

訪問ステーションてとてと小平（訪問看護）

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 看護
        - 人員は5名体制で安定しているが、1人あたりの担当数は目標値を下回った。
        - 登録率が低いことから、稼働率が低下し、収支は不安定となった。
      - リハビリ
        - 人員は3名体制で安定しており、1人当たりの担当数も目標値を維持できた。
        - 収支の安定を図る基盤となった。
    - 稼働率
      - 後方支援病院と連携し、退院者を効率よく利用に繋ぎ、稼働率の向上を図ることができた。
      - 訪問営業やFAX営業を実施することで、居宅や包括から新規依頼を頂き、稼働率の向上をはかることができた。
    - 収支改善
      - 後方支援病院との連携や訪問営業等の実施で、リハビリの研修が向上した。
  - サービスの質
    - 重度医療が必要な利用者を積極的に受け入れる体制を構築した
      - 経験のある職員が、経験の浅い職員へ同行訪問で指導をした。
      - オンコール対応が全看護師対応可能となり、質の向上に繋がった。
    - 糖尿病や排尿障害の疾患に対するリハビリは、資格をもつセラピストが訪問した
      - 糖尿病リハ、排尿障害リハの資格取得者に対する新規利用の依頼があり、サービス開始につながった
  - 人材育成、職場環境の整備
    - 人材育成
      - 看護
        - 学研メディカルサポート（e-ラーニング）を毎月受講し、知識習得に努めた。

            - リハビリ
                - 事業所単位で勉強会を開催し、知識の習得に努めた。
            - 看護・リハビリ共通
                - 年間計画を立て、看護・リハ技術以外の研修を実施した。
        - 職場環境
            - 面談を実施し、職員の状況把握に努めた。可能な限り職場改善に努めた。
    - 法人、グループ内の連携
        - 後方支援病院と連携を取り、退院予定者で訪問看護の利用が必要な方の今後の支援について月2回会議を開催し、サービスに繋げた。
        - 他のてとてとと月2回連携を図り、加算や状況確認をして事業運営を進めた。
    - 地域貢献活動
        - 地域リハビリテーション活動支援事業や地域ケア会議に参加し、地域貢献した。
    - 新型コロナウイルスへの対応
        - 標準予防策、環境整備など感染対策の徹底
        - 職員へのワクチン接種の実施

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
延べ人数	9,547名	9,126名(▲421名)
平均要介護度	2.3	2.4（+0.1）
単価（人・日）	5,389円	5,596円（＋207円）

ケアプランセンターてとてと小平（居宅）

- 事業報告の概要
        - 収益
            - 全体の収益は前年度より上昇した。
            - 主任ケアマネ含めた3名体制で安定し、担当数も増加していった。目標値にはまだ届かず、まだ収益増加の見込みあり。
        - 稼働率
            - 後方支援病院との連携強化により、月毎の居宅利用者が増加し、稼働率の向上に繋がった。

        - 収支改善
            - 後方支援病院との連携強化により、月毎の居宅利用者が増加し、収支改善に繋がった。
    - サービスの質
        - 介護保険制度を熟知し、利用者一人一人に合ったケアプランの立案できた。
        - 利用者の把握に努め、個別性をしっかり出せるケアプランの作成が可能となった。
    - 人材育成、職場環境の整備
        - 人材育成
            - 主任ケアマネを中心とした研修や相談などを適宜実施した。
            - 年間計画を立て、ケアマネとしての研修だけでなく接遇や法令等、様々な研修を実施した。
        - 職場環境
            - 面談を実施し、職員の状況把握に努めた。可能な限り職場改善に努めた。
    - 法人、グループ内の連携
        - 後方支援病院と連携を取り、退院予定者で居宅の利用が必要な方の今後の支援について月2回会議を開催し、サービスに繋げた。
        - 他の事業所と月2回連携を図り、加算や状況確認をして事業運営を進めた。
    - 地域貢献活動
        - コロナウイルス による研修中止や地域活動中止。
        - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続した。
    - 新型コロナウイルスへの対応
        - 標準予防策、環境整備など感染対策の徹底
        - 職員へのワクチン接種の実施
- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
ケアプラン数	821名	861名（+40名）
平均要介護度	2.1	2.3（+0.2）
単価（人・月）	12,542円	12,317円（▲225円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとてと徳島（訪問看護）

ケアプランセンター　てとてと徳島（居宅介護支援事業所）

高齢者事業

訪問ステーションてとてと徳島（訪問看護）

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 訪問スタッフの増加により、サービス提供回数が増加
        - 常勤換算（前年度比）
          - 看護師：±0名、リハ：+1.0名
        - 提供回数（前年度比）
          - 看護：介護保険+614回、医療保険+698回
          - リハ：介護保険+692回、医療保険+309回
      - 加算取得の増加（前年度比）
        - 緊急時加算：介護保険+113回、医療保険+42回
        - 特別管理加算：介護保険+5回、医療保険+2回
        - 難病等複数回訪問加算：+530回（医療保険のみの加算）
        - 複数名訪問看護加算：+34回（医療保険のみの加算）
      - 時間外オンコール対応の増加（前年度比）
        - 緊急訪問看護加算：+15回
        - 早朝・夜間・深夜訪問加算：+20回
      - コロナ特例による訪問看護加算（前年度比）
        - 長時間訪問看護加算（コロナ特例）：+28回
        - 特別管理加算（コロナ特例）：+12回
      - 精神科訪問看護のサービス提供開始
        - 利用者数：+7名
        - 提供回数：看護師+41回　作業療法士+10回
    - 稼働率
      - 出勤体制を見直し強化したため、看護師によるオンコール訪問、土日祝日訪問の体制が強化できた
        - 平日日勤帯以外のサービス訪問回数の増加につながった
      - 既存利用者のサービス内容を見直し、週あたりの提供回数の増加、職種別の訪問併用によるサービス提供回数の増加につながった
    - 収支改善
      - 訪問診療医師、地域ケアマネジャーとの連携強化に努め、新規利用者の紹介件数の増加につながった

- ○ サービスの質
  - ■ 重度医療が必要な利用者を積極的に受け入れる体制を構築
    - ● 特定行為研修修了者の看護師が中心になって訪問、他の看護師へ技術指導を実施
    - ● 重度褥瘡に対する加算を算定：専門管理加算（+2回）
    - ● 外部の病院で開催された退院前カンファレンスに積極的に参加
      - ○ 在宅患者緊急時等カンファレンス加算を算定（前年度比+2回）
  - ■ 糖尿病、呼吸器疾患等、特有の疾患に対するリハビリは、認定資格をもつセラピストが訪問
    - ● 糖尿病リハ、呼吸器リハの資格取得者に対する新規利用の依頼があり、サービス開始につながった
- ○ 人材の確保、育成
  - ■ 後方支援病院との連携による人員配置の適正化
  - ■ 研修の実施
    - ● 年間研修計画を立案し、計画に沿って研修を実施
    - ● 多職種での症例検討会を実施し、職種を越えて知識を共有
    - ● オンライン学習を利用して、業務の合間で研修
- ○ 法人、グループ内の連携
  - ■ 後方支援病院、てとてとグループ間での会議、連携を実施し、情報共有しながら事業運営を進めた
- ○ 地域貢献活動
  - ■ 直接、利用者からのサービス利用依頼に対して、積極的に受け入れを実施
  - ■ ケアマネジャーからの困難事例に、アドバイス、受け入れ対応を実施
- ○ その他
  - ■ 新型コロナウイルスへの対応
    - ● 標準予防策、環境整備など感染対策の徹底

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
延べ人数	15,864名	18,271名（+2,407名）
平均要介護度	2.0	2.1（+0.1）
単価（人・日）	4,954円	5,161円（+207円）

ケアプランセンター　てとてと徳島（居宅）

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 担当数の減少により前年度比で減収
    - 稼働率
      - 担当利用者のうち、入院、入所利用者が多く、稼働率が低下
    - 収支改善
      - 後方支援病院との連携強化
      - 在宅診療医、地域包括支援センターとの連携強化
  - サービスの質
    - 介護保険制度を熟知し、利用者一人一人に合ったケアプランの立案
    - 主任ケアマネ取得に向けての外部研修会へ積極的に参加
    - 利用者宅への訪問、主治医への通院同行の回数を増やし、利用者、家族、また主治医と、顔の見える関係づくりに努めた
  - 人材の確保、育成
    - 無料求人媒体を中心に求人活動を実施、またグループ内でのケアマネ転職希望者を調査
    - 研修の実施
      - 年間研修計画を立案し、計画に沿って研修を実施
      - グループ内の居宅支援事業所間で症例検討会を実施
  - 法人、グループ内の連携
    - グループの居宅支援事業所と連携し、悩みの共有、問題点の解決等を実施
    - てとてとグループでの会議にて、制度の相談、件数増加に向けて検討を実施
  - 地域貢献活動
    - 地域ケア会議へ参加し、難渋事例へのアドバイスを提示
  - その他
    - 新型コロナウイルスへの対応
      - 標準予防策、環境整備など感染対策の徹底
- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
ケアプラン数	810名	799名（▲11名）
平均要介護度	2.0	2.0（±0）
単価（人・月）	12,237円	12,108円（▲129円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

障がい者事業
　ＯＵＣＨＩ　ＣＡＦＥ・ＫＩＴＣＨＥＮ（就労継続支援B型）【定員：20名】
　ＯＵＣＨＩ　ＨＯＭＥ（共同生活援助）【定員：14名】

障がい者事業

ＯＵＣＨＩ　ＣＡＦＥ・ＫＩＴＣＨＥＮ（就労継続支援B型）【定員：20名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 2022年度は前年度に要件（6ヵ月の就労継続）に達する就労定着者がおらず、就労移行支援体制加算（I）を算定することができなかった。
      - 就労移行支援体制加算が算定できなかった分、単価は下がったものの、稼働率の上昇により結果的には増収となった。
    - 稼働率
      - 地域の特定相談支援事業所、保健センターからの問い合わせが増えたことや、大内病院との連携により、利用者が増加した。
      - 曜日ごとに定員以上の利用者を確保し、新型コロナ感染症への不安や日々の体調変化によるキャンセルから稼働率が低下することに対応した。
    - 収支改善
      - 利用者の欠席に対する対応を強化し、欠席時対応加算の適切な算定を行った。
      - 2022年度は新規利用者が多く、初期加算を算定することができた。
  - サービスの質
    - 利用者個々の能力やニーズに合わせた仕事の提供のために、昨年度に引き続き利用者との定期的な面談を実施した。
    - 利用者同士のトラブルには迅速に対応し、通所しやすい環境づくりに努めた。
    - グループ内のお中元やお歳暮、大内病院デイケアへの弁当やデザートの提供を引き続き行い、工賃の維持向上につながった。
  - 人材の確保、育成
    - 施設内研修や勉強会を定期的に実施。
    - 職員との個別面談を実施。日頃の困りごとや目標などの聞き取りを行い、職場環境の改善に努めた。
  - 法人、グループ内の連携
    - 大内病院の在宅部門ミーティングにて退院患者支援情報の共有。
    - 大内病院デイケアへ昼食のお弁当やデザートの提供の継続。
    - ココロネ板橋、ココロネ淡路、PALETTEと共同でグループ内へお中元やお

歳暮の提供を実施。

- ○ 地域貢献活動
  - ■ 8/1～9/10、「ビシャバシャ花火展」開催。足立区内で児童養護施設を中心に活動している団体の企画に、場所をお貸しする形で協力。2022年度は、1/21～2/24に「ボールでアート展」も開催した。
  - ■ くるりPJ実施。1個200円で事前に購入していただき、児童養護施設にOUCHIのパンやデザートをお届けする企画。7月に七夕ゼリー80個、12月はサンタパン80個を提供。
  - ■ 「OUCHI　Do曜日」。地域に想いを寄せて活動している方々に出店していただき、「地域とのつながりを広げる」ことを目指してイベントを開催。当日は利用者も参加し、地域の方々との交流の場となった。
  - ■ 「足立区こころの健康フェスティバル」。区内の就労継続支援B型事業所、GHなどが一堂に会して販売や発表などを行うイベント。2022年度はオンラインで各事業所の取組み等を発表する形での開催となった。
- ○ 改修工事
  - ■ ＣＡＦＥ雨漏り修繕
  - ■ ＫＩＴＣＨＥＮ南側窓へのロールカーテン設置
- ○ 新型コロナウイルスへの対応
  - ■ スタッフ、利用者への標準予防策、環境整備など感染対策の徹底。
  - ■ CAFE客席やレジにパーテーションを設置。客席の間隔をあけ、入店時の手指消毒や黙食にご協力いただく形で営業した。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	61.9%	82.7%（+20.8%）
単価（人・日）	8,780円	8,229円（▲551円）

ＯＵＣＨＩ　ＨＯＭＥ（共同生活援助）【定員：14名】

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - HOME、かりんともに稼働率が上がり、増収となった。
      - 精神障害者地域移行特別加算の対象者が入居している状況に変わりはないが、かりん入居者の入院が長期に渡ってしまったこともあって、単価は前年度比で低下となっている。
    - 稼働率
      - かりんは、長期入院していた方の退居と新規入居希望の問合せが続いたことにより、稼働率の上昇につながった。
      - かりんは、3名退居で3名入居。うち1名は、関係者会議での協議の結果、「期限のない環境で、自立に向けてじっくり取り組んでもらうことが必要」となったため、HOMEからの転居。
      - HOMEは、新型コロナ感染症の影響などで滞っていた新規の入居が相次いで決定したことが、稼働率の上昇につながった。
      - HOMEは、女性1名、男性1名が退居し、女性2名、男性3名が入居した。
      - 稼働率低下を防ぐためには、退居から次の方の入居までの期間を短くする必要があるため、大内病院との情報共有や地域の特定相談支援事業所への空室状況の共有等を行った。
    - 収支改善
      - 特定相談支援事業所や保健センターなどへの空室状況の連絡等を継続的に行い、待機者の確保を図った。
      - 入居者の入院時の加算や退居による空室発生時の空室補償など、適切な加算算定等を行うことで、減収を抑えた。
  - サービスの質
    - 日頃のコミュニケーションや入居者への定期的な面談を通して個々のニーズを聞き取り、それぞれの入居者に合わせた生活支援の提供を心がけた。
    - 定期的なスタッフミーティングで入居者の現状を共有し、支援内容等についての検討を行った。
    - 食事会を行うことはできなかったが、年末年始など、季節を感じられるような食事の提供を行った。
  - 人材の確保、育成
    - 施設内研修や勉強会を定期的に実施。
    - 外部研修への積極的な参加。

        - 職員に対して適宜面談を行い、日々の業務や入居者への支援などでの困りごとに対応。
    - 法人、グループ内の連携
        - 大内病院の在宅部門ミーティングにて、HOME・かりんの稼働状況等について共有。
        - OUCHI　CAFE・KITCHENで行っているオンライン交流会への参加。グループホーム入居者同士のみならず、就労Ｂ型利用者との交流の場となった。
    - 地域貢献活動
        - 10/11～11/18、「OUCHI展覧会」開催。地域の児童養護施設の子どもたちの作品と、入居者の作品を、CAFEにて展示。CAFEのお客様や地域の方たちに自身の作品を見てもらい、ときには作品について説明する機会を設けることで、地域とのつながりを感じられる場となった。
        - 町会への参加により、地域に根差した施設であることを地域住民の皆様に理解していただいた。
    - 改修工事
        - ＨＯＭＥバルコニー外壁塗装
        - かりん雨漏り修繕
        - ＨＯＭＥ雨漏り修繕
    - 新型コロナウイルスへの対応
        - マスク着用、手指消毒などの予防対策の入居者への周知徹底をするとともに最低1日1回の検温と体調チェックを行い、環境整備などと合わせて感染対策を行った。
        - 東京都の要請による週1回のPCR検査を継続。

- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
稼働率	64.2%	75.1%（+10.9%）
単価（人・日）	4,072円	4,042円（▲30円）

2023年 6月 6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

高齢者事業

　岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

高齢者事業

岩国市岩国第三地域包括支援センター（地域包括）

- 事業報告の概要
  - 業績等
    - 収益
      - 岩国市委託料は高齢者人口6千人を上回った為増加。介護予防支援事業所としての給付件数は、サービス卒業を含めた自立支援のマネジメント強化により減少。
      - 収益は認められておらず、毎年岩国市への返還金が生じている。
    - 包括的支援事業
      - 総合相談支援対応として年間延べ4,497件の相談に対応。
      - 権利擁護業務として成年後見等の相談や虐待受付対応を実施。
      - 包括的継続的マネジメント業務としてケアマネからの相談対応。（延べ115件）
      - 認知症総合支援事業や地域ケア会議開催等を実施。
    - 介護予防・日常生活支援総合事業
      - 介護予防に関する啓発や介護予防ケアマネジメントを実施。
  - サービスの質
    - 多種多様な相談に面接技術を駆使して懇切丁寧に対応した。
  - 人材の確保、育成
    - 職員2名が産休・育休から復職し、主任ケアマネ1名、社会福祉士2名、保健師1名の配置が再開した。外部内部の研修に参加しスキルアップを図った。
    - 灘中洋地区で介護予防教室を開催し、住民主体の「通いの場」が出来た。
  - 新型コロナウイルスへの対応
    - 基本的な感染対策を徹底。担当区内19箇所の通いの場に向けて、感染防止対策を取りながら活動を継続出来るように支援。リハビリ専門職講演会を開催し、活動内容へのアドバイスやグループワークで意見交換を行った。
- 主な指標　※（　）の数値は対前年度の増減

	2021年度	2022年度
ケアプラン数	1,955名	1,890名（▲65名）

2023年6月6日

2022年度　事業報告
社会福祉法人　平成記念会

対象事業所

障がい者（児）事業

サポートハウス　ココロネ住吉（療養介護・医療型障害児入所施設）【定員：100名】

サポートハウス　ココロネ住吉（短期入所）【定員：空床利用型】

ココロネリビング（生活介護）【定員：20名】

ココロネクラブ（放課後デイサービス）【定員：5名】

---

1. 2022年度 事業報告の概要

概要

1. 2022年6月の開設以降、長期入所者の獲得に苦慮し、開設6か月経過後の2022年12月に1フロアに統合した。
2. 長期入所者獲得が想定以上に難しい状況で、計画を大幅に下回る稼働率となった。
3. 行政機関、地域の医療機関等を定期的に訪問し、情報交換、広報活動を積極的に実施した。

○ 全体

項目	2022年度	前年比	要点
事業収益	352百万円	―	

○ 指標：病院

項目		2022年度	前年比	要点
入院	全稼働率	14.7%	―	
外来	患者延数	3,379名	―	
	患者数／日	13.9名	―	

○ 指標：その他（稼働率、利用者延数）

項目	2022年度	前年比	要点
訪問診療	1,584名	―	
短期入所・療養介護	1,328名	―	
生活介護	576名	―	
放課後等デイサービス	272名	―	

新型コロナウイルス関連補助金（合計：3,985,000円）

○ 兵庫県
  ■ クラスター発生による空床補償（2,201,000円）
○ 神戸市
  ■ コロナ陽性者発生受入治療支援（708,000円）
  ■ クラスター発生による感染対策かかり増し費用支援（1,076,000円）

物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金（合計：2,496,400円）

○ 兵庫県
  ○ 医療機関等の医療提供一時支援金（2,000,000円）
○ 神戸市
  ○ コロナ禍における福祉施設光熱費高騰緊急一時支援金（496,400円）

2. 医業収支

※（　）の数値は前年比

項目	2021年度	2022年度
医業収益	ー	352百万円（ー）
医業費用	ー	902百万円（ー）
医業利益	ー	▲550百万円（ー）

3. 入院部門

a. 全体：100床

i. 概況

- ○ 障害者施設等入院基本料　10対1（診療報酬）
- ○ 療養介護（障害者総合支援法）
- ○ 医療型障害児入所施設（児童福祉法）
- ○ 短期入所（障害者総合支援法）

- ○ 2022年6月の開設以降、長期入所者の獲得に苦慮し、開設6か月経過後の2022年12月に1フロアに統合した。
- ○ 短期入所は需要が高く、申込者全てを受け入れることが難しく、やむなく断わるケースも発生した。

ii. 主な指標

項目	2021年度	2022年度
稼働率	ー	14.7%（ー）
単価（人・日）	ー	36,714円（ー）
入院収益	ー	165百万円（ー）

4. 外来部門

i. 概況

- ○ 小児科、リハビリテーション科
- ○ 外来機能の認知度が低いため、地域の医療機関や行政機関等を定期的に訪問し広報活動を行った。
- ○ 神戸市と予防接種の委託契約を行い、ワクチン接種を行った。

ii. 主な指標

項目	2021年度	2022年度
外来患者延数	―	3,379名（―）
外来患者数／日	―	13.9名（―）
単価	―	7,749円（―）
収益	―	※61百万円（―）

※短期入所者のリハビリ・ケア訪問診療保健請求費・予防接種・健康診段費用収益含（外来算定）

5. 付帯事業

○**（生活介護）【20名】**

i. 概況

○ 近隣の支援学校より、卒業後の進路として検討している生徒のために、現場実習を積極的に受け入れ、利用者獲得につなげた。

ii. 主な指標

項目	2021年度	2022年度
利用者延数	―	576名（―）
利用者数／日	―	2.4名（―）
収益	―	10百万円（―）

○**（放課後等デイサービス）【5名】**

i. 概況

○ 開設前の行政情報等により高い需要を想定し、受け入れ先の少ない医療的ケアの必要な利用者を積極的に受け入れを行うも、想定以上に利用者獲得に苦慮した。

ii. 主な指標

項目	2021年度	2022年度
利用者延数	―	272名（―）
利用者数／日	―	1.1名（―）
収益	―	7百万円（―）

以上